

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル生産実習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	U22120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	セミタイトスカート設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ（へらorチャコペーパー） 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%						
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。						
教科書	資料を配布する						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編 文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル生産実習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	U22120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	セミタイトスカート設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ（へらorチャコペーパー） 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%						
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。						
教科書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	衣生活論						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U11010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活学入門						
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目指す。具体的に扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服と社会とを関係づけることができる。 ・被服のなりたちについて説明することができる。 ・被服と人の心身とを関係づけることができる。 						
授業計画	第1回 人と被服との関わりについて考える 第2回 被服の起源 第3回 被服の歴史と文化 和服の歴史 第4回 被服の歴史と文化 洋服の時代へ 第5回 被服の未来 機能性とデザイン 第6回 民族と衣生活 第7回 レポート課題とmanaba小テスト 第8回 自然環境と被服 第9回 ライフスタイルと被服 衣生活の現状 第10回 ライフスタイルと被服 TPOとフォーマルウェア 第11回 ライフスタイルと被服 ライフサイクルから見た衣服設計 第12回 衣服の取扱いと表示 第13回 被服の廃棄とリサイクル 第14回 まとめ 期末試験 第15回 試験の復習と最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと（30分） 授業後学習：復習と課題（90分）						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点 40%、試験とレポート課題 60%						
履修上の注意	出席を重視する						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）ISBN 978-4-254-60633-1						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	インテリア・コーディネート実習						
担当教員	山本 嘉寛					科目ナンバ-	U12150
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	言葉の持つイメージをインテリア空間として構想し、それを他者に表現する手法の基礎を学ぶ。						
授業の概要	インテリアにまつわる基礎的な知識と、イメージを空間として実現するための手法を学ぶ。図面や空間表現の基礎的な技術を学び、作成したプレゼンテーションボードを用いて発表を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インテリアを構成する要素についての基礎的な知識を持つことができる。 2. 漠然とした言葉のイメージから空間を構想することができる。 3. 構想した空間を表現することができる。 4. 表現した空間を他者に伝えることができる。 						
授業計画	第1回：授業のガイダンスとインテリアデザイン／インテリアコーディネートをめぐる概説 第2回：言葉から連想される空間の実例を集め、各自のテーマを決定する。 第3回：インテリア図面と空間表現の概説 第4回：仕上材（床／壁／天井）の概説とそのコーディネート 第5回：開口部（窓／扉）の概説とそのコーディネート 第6回：建材ショールームの見学 第7回：窓装飾の概説とそのコーディネート 第8回：家具の概説とそのコーディネート 第9回：プレゼンテーションボードの製作 第10回：給排水衛生設備の概説とそのコーディネート 第11回：照明器具の概説とそのコーディネート 第12回：プレゼンテーションボードとインテリア模型の製作 第13回：プレゼンテーションボードとインテリア模型の製作 第14回：製作した課題の発表 第15回：総評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	身の回りに存在する様々なインテリアに目を向けてみましょう（床、壁、天井、窓、扉、家具、照明・・・）。それらが何で出来ているか、どういった意図で選ばれているか考えてみましょう。						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションボード60%、平常点40%						
履修上の注意	授業の一環としてショールーム見学を行う（交通費実費負担） ハサミ、糊、ペン、色鉛筆、その他画材を各自用意する場合がある						
教科書	プリント配布						
参考書	図解テキスト インテリアデザイン 第1版 第5刷 井上書院 著者 小宮容一 片山勢津子 ベリー史子 加藤力 塚口眞佐子 西山紀子 ISBN 978-4-7530-1587-0 C3052						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族関係学						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	U72030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化を捉えつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齡化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。 ・現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。 						
授業計画	第1回 人の一生と家族 第2回 青年期の自立と家族 第3回 家族の概念と定義 第4回 少子化とその原因分析 第5回 子どもの発達と親の役割 第6回 家族関係を分析する理論—役割理論— 第7回 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— (ゲストスピーカー招聘予定) 第8回 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 第9回 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 第10回 高齡社会と家族 第11回 共生社会と福祉 (高齡者福祉・児童福祉) 第12回 家族とグローバリゼーション 第13回 夫婦関係と法律 第14回 親子関係と法律 第15回 家族生活と社会・期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：授業前に、各回の授業で扱うテーマの箇所を予習する。(学習時間各60分) 授業後学習：第1回目は、グループディスカッションした結果と官庁統計データをもとに、女性のライフコースについてのレポートを作成する。第2回目は、わがまちの人口変動(少子化)と子育て支援について、出身地や居住地の人口変動を調べ、子育て支援対策についてのレポートを作成する。(学習時間各300分)						
授業方法	講義 ディスカッション：女性のライフコースについての調査結果を用いてグループでディスカッションを行う。 レポート提出：松蔭マナバを利用して、レポートを提出する。 プレゼンテーション：レポートの内容を提出後発表し、意見交換をする。						
評価基準と評価方法	小レポート、授業外レポート2回、発表と期末試験(授業中の小レポート・授業外レポート2回60% 期末試験40%) レポートは、評価基準を定めたルーブリック評価を行う。評価はマナバ上でフィードバックする。 期末試験は、到達目標に示されたように、家族社会学の専門用語の理解及び、現代家族問題解決についての知識、技能、態度が確認できる設問を用意する。試験結果を解説とともに返還する。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。学外に出て、地域のデータを集めたり、フィールドワークをしその結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	よくわかる現代家族【第2版】神原文子、杉井順子、竹田美知						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	長尾 夏樹・福田 博也					科目ナンバ-	U72150
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な家電情報機器の役割や仕組み						
授業の概要	<p>家庭で使用される機器は科学技術の発達により高度化されてきた。とくに最近では、一般家電機器にもコンピュータが導入され、より高度で便利な機械へと変化している。本講義ではこれら機器の一般的特質を理解すること、それらの購入・使用とそれにまつわるさまざまな問題、トラブル発生時に具体的・現実的な処理・対応のための基本的知識を修得することを目的とする。また、これからの生活に不可欠なコンピュータの扱い方なども詳しく解説・指導し、初級システムアドミニストレータの資格取得できるくらいのレベルになるような教育を行う。生活と技術との関係について、生産、家庭生活、教育の視点から考察する。家庭生活に関わる機器、情報通信技術と各種ソフトウェアに関する基礎的な知識を得る（知識・内容の理解）。家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェア、情報セキュリティ等について関心を持つ（関心・意欲）。情報通信技術と各種ソフトウェアに関する諸問題について、倫理的な見方や考え方を身につける（態度）。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアの仕組みがわかるようになる。 ・適切な製品を選択できるようになる。 ・機器を安全かつ有効に使用できるようになる。 						
授業計画	<p>第1回 食生活と機器（担当：福田） 第2回 衣生活と機器（担当：福田） 第3回 住生活と機器（担当：福田） 第4回 電気・機械の基礎知識（担当：福田） 第5回 家庭用のエネルギー（担当：福田） 第6回 技術と環境問題（担当：福田） 第7回 エネルギー変換、電池（担当：福田） 第8回 情報機器のしくみ・デジタルAV機器（担当：長尾） 第9回 情報機器のしくみ・家庭用パーソナルコンピュータ（担当：長尾） 第10回 情報ネットワークの仕組み（担当：長尾） 第11回 情報の収集、処理、分析、発信（担当：長尾） 第12回 通信ネットワーク、インターネットの現状と近未来（担当：長尾） 第13回 個人情報とプライバシー、情報セキュリティ（担当：長尾） 第14回 家庭の省エネルギー（担当：長尾） 第15回 1回～15回のまとめ（担当：長尾） 期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 60%、提出物 20%、授業での発表など 20%						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	共生社会論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U72050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「共生」「多文化」「格差」をキーワードに社会的諸問題について考える						
授業の概要	本講義は、共生社会のあり方を理解することを目的とする。共生社会とは、男女、世代、地域、民族など、さまざまな生活習慣や文化を持つ集団に属する人々が、互いの違いを認め対等な関係を築く社会である。21世紀は、グローバル化が加速し、多様な資源が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に、人々が、共に尊重し合いながら、生活するためにはどのようなことが必要であるか考える。さらに、具体的な事例を通して、自らの価値観や行動を振り返ることで、共生社会を生きる生活者に必要な基礎的教養および態度を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生」「多文化」「格差」をめぐる諸問題について、自らの視点から考えを述べることができる。 ・これらの問題に対する専門用語について理解ができる。 ・各種学習活動について、積極的な姿勢で取り組むことができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態と個人発表日程決め） 第2回 あいさつと多文化 第3回 お祭り・労働から考える多文化 第4回 環境問題と多文化 第5回 都市化・過疎化と共生 第6回 都市化・過疎化に対する政策 第7回 動物との共生（伴侶動物としてのペット） 第8回 動物との共生（いのちとペット） 第9回 日本の文化を客観視する（ゲストスピーカーによる講演） 第10回 外国人との共生（過去と現状を中心に） 第11回 外国人との共生（未来への展望を中心に） 第12回 身近な家族との共生（パートナーを中心に） 第13回 子供との共生 第14回 万人との共生 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：個人発表レポートは、各自で責任をもって必ず発表すること。詳細は、第1回目の講義で案内する。 授業後：講義の資料は、毎回松蔭manabaで公開するので、適宜チェックすること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	個人発表レポート(30%)、終講課題(20%)、授業のワークシート記入及び受講態度などの平常点(50%)を総合的にみて評価する						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 ・参加型講義に抵抗がある履修者は受講をすすめない。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U12120
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養について科学的に理解し、乳児期から高齢期までの各ステージにおける栄養に応用できる。						
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。本講義ではまず、「栄養とは何か」、その意義について理解する。次いで、主に各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。具体的には、①栄養の概念、②5栄養素と消化・吸収・体内動態、③食品の機能性、④ライフステージと栄養、⑤生活習慣と健康などについて解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が記述できるようになる。 ・主要なライフステージでの栄養の特徴が答えられるようになる。 ・食品の機能性について列挙できるようになる。 						
授業計画	第1回 健康と栄養：健康概念と栄養・食生活 第2回 食事と栄養物質(1)：炭水化物の栄養 第3回 食事と栄養物質(2)：脂質の栄養 第4回 食事と栄養物質(3)：タンパク質の栄養、小テスト 第5回 食事と栄養物質(4)：無機質の栄養 第6回 食事と栄養物質(5)：ビタミンの栄養 第7回 エネルギー代謝、小テスト 第8回 食事と健康(1)：食事摂取基準 第9回 食事と健康(2)：健康づくりのための政策、健康とダイエット 第10回 ライフステージと栄養(1)：胎児・妊娠・授乳期 第11回 ライフステージと栄養(2)：成長期・成人期・高齢期、小テスト 第12回 生活習慣病と栄養(1)：生活習慣病とは 第13回 生活習慣病と栄養(2)：生活習慣病と食事 第14回 免疫と栄養 第15回 期末テスト、病態時の栄養						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 授業後：配布プリントなどを使い学習内容を復習してノートにまとめる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	三訂 栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他適宜プリント配布						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。 						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。 						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。 						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。 						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。 						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目																																																	
科目名	基礎演習B																																																	
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U0106B																																											
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																																											
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																																																	
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表)</p> <p>2. クラス別課題探求 (ローテーション講義へ向けた心構え)</p> <p>3~14: ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	3~6回	花田	奥井	長谷川	7~10回	長谷川	花田	奥井	11~14回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
3~6回	花田	奥井	長谷川																																															
7~10回	長谷川	花田	奥井																																															
11~14回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
3~8回	川口	青谷																																																
9~14回	青谷	川口																																																
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	資料収集、プレゼンテーション準備																																																	
授業方法	演習																																																	
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(60%)による総合評価																																																	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として、欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 																																																	
教科書	授業毎にプリントを配布する。																																																	
参考書																																																		

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U0106B																									
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表)</p> <p>2. クラス別課題探求 (ローテーション講義へ向けた心構え)</p> <p>3~14: ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ 奥井「生活経営入門」 長谷川「キャリア入門」 花田「衣生活入門」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>UL①</th> <th>UL②</th> <th>UL③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3~6回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </tbody> </table> <p>各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>UB①</th> <th>UB②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </tbody> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>								UL①	UL②	UL③	3~6回	花田	奥井	長谷川	7~10回	長谷川	花田	奥井	11~14回	奥井	長谷川	花田		UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																													
3~6回	花田	奥井	長谷川																													
7~10回	長谷川	花田	奥井																													
11~14回	奥井	長谷川	花田																													
	UB①	UB②																														
3~8回	川口	青谷																														
9~14回	青谷	川口																														
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(60%)による総合評価																															
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として、欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 																															
教科書	授業毎にプリントを配布する。																															
参考書																																

科目区分	都市生活学科専門教育科目																																																	
科目名	基礎演習B																																																	
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U0106B																																											
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																																											
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																																																	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表) クラス別課題探求 (ローテーション講義へ向けた心構え) 3~14: ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す) <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて 							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	3~6回	花田	奥井	長谷川	7~10回	長谷川	花田	奥井	11~14回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
3~6回	花田	奥井	長谷川																																															
7~10回	長谷川	花田	奥井																																															
11~14回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
3~8回	川口	青谷																																																
9~14回	青谷	川口																																																
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	資料収集、プレゼンテーション準備																																																	
授業方法	演習																																																	
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(60%)による総合評価																																																	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として、欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 																																																	
教科書	授業毎にプリントを配布する。																																																	
参考書																																																		

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U0106B																									
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表)</p> <p>2. クラス別課題探求 (ローテーション講義へ向けた心構え)</p> <p>3~14: ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ 奥井「生活経営入門」 長谷川「キャリア入門」 花田「衣生活入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>								UL①	UL②	UL③	3~6回	花田	奥井	長谷川	7~10回	長谷川	花田	奥井	11~14回	奥井	長谷川	花田		UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																													
3~6回	花田	奥井	長谷川																													
7~10回	長谷川	花田	奥井																													
11~14回	奥井	長谷川	花田																													
	UB①	UB②																														
3~8回	川口	青谷																														
9~14回	青谷	川口																														
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(60%)による総合評価																															
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として、欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 																															
教科書	授業毎にプリントを配布する。																															
参考書																																

科目区分	都市生活学科専門教育科目																																																	
科目名	基礎演習B																																																	
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U0106B																																											
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																																											
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																																																	
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表)</p> <p>2. クラス別課題探求 (ローテーション講義へ向けた心構え)</p> <p>3~14: ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	3~6回	花田	奥井	長谷川	7~10回	長谷川	花田	奥井	11~14回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
3~6回	花田	奥井	長谷川																																															
7~10回	長谷川	花田	奥井																																															
11~14回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
3~8回	川口	青谷																																																
9~14回	青谷	川口																																																
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	資料収集、プレゼンテーション準備																																																	
授業方法	演習																																																	
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(60%)による総合評価																																																	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として、欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 																																																	
教科書	授業毎にプリントを配布する。																																																	
参考書																																																		

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	公衆衛生学						
担当教員	竹市 仁美					科目ナンバ-	U72410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人の健康と疾患、衛生環境、法律、制度 疾病予防						
授業の概要	「公衆」の健康を保持増進するための理論と方法について学ぶ。特に、地域社会における生活者としての公衆衛生部分を重視する。「健康」とは何かについて定義し、公衆衛生学とわが国の公衆衛生の現状を踏まえ、衛生統計、衛生行政の基礎と現状、疾病と受療状況、保健医療対策などの諸問題について取り上げて講義する。特に、予防の概念の重要性を学ぶ。公衆衛生学の知識を全般的に学び、特に予防に関する理解を深め、身近で起こっている事象に対して、予防の概念がどの程度応用されているか理解できるようになることを目的とする。						
到達目標	健康と疾病に関わる統計資料の傾向性を把握できる。 健康の保持増進のための対策を理解できる。 疾病予防の重要性を理解できる。 保健、医療、福祉の制度を理解できる。						
授業計画	第1回 公衆衛生の概念と歴史 第2回 健康と予防医学の概念 第3回 保健統計(人口、衛生環境) 第4回 保健統計(疾病) 第5回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅰ(食事と運動) 第6回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅱ(飲酒、喫煙、口腔保健) 第7回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅲ(休養、睡眠、ストレス) 第8回 健康日本21(第2次)と健康づくり 第9回 母子保健と施策 第10回 老人保健と施策 第11回 産業保健と環境保健 第12回 感染症の現状と予防対策 第13回 疫学の方法と概念 第14回 地球環境と食糧事情・食環境の整備と街づくり 第15回 授業内容のまとめ・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業の内容箇所の教科書予習。(学習時間90分) 授業後学習：授業内容の復習と要点箇所の整理、課題作成(学習時間90分)						
授業方法	講義(練習ワークも取り入れながら、各回設定テーマに沿った講義を行う)						
評価基準と評価方法	平常点 20%：出席回数、リアクションペーパーによって評価する。 中間試験：20% 期末試験：60%						
履修上の注意	身の回りの食品環境や健康と疾病の関連に積極的に意識を向け、課題に取り組むこと。						
教科書	公衆衛生学/柳川洋・尾島俊之/医歯薬出版						
参考書	厚生労働統計協会/図説 国民衛生の動向 2017/2018						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習I						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U22010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、班分け 2. レポートの書き方(1)－構成－ 3. レポートの書き方(2)－図表の作成－ 4. ミュラーリヤアの錯視(1)－解説－ 5. ミュラーリヤアの錯視(2)－実験の実施－ 6. ミュラーリヤアの錯視(3)－データの整理－ 7. 鏡映描写(1)－解説と実験－ 8. 鏡映描写(2)－データの整理－ 9. 自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験－ 10. 自由再生における系列位置効果(2)－データの整理－ 11. 要求水準(1)－解説と実験－ 12. 要求水準(2)－データの整理－ 13. 認知的葛藤(1)－解説と実験－ 14. 認知的葛藤(2)－データの整理－ 15. 講評 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習として参考書の該当実験のページに目をとしておく。(学習時間：90分) 授業後学習としてレポートの仕上げをする。(学習時間：90分)						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つのテーマが終わったら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。						
評価基準と評価方法	レポート80% (締め切り厳守)、実験への取り組み20% レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにする。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを期限までに松蔭manabaに提出することが必須である。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習II						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、心理検査、イメージの測定、社会的態度尺度の作成法などの心理学の基礎的な検査や調査を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方、班分け 2. 状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈 3. YG性格検査(1)－解説－ 4. YG性格検査(2)－受検と評点－ 5. SD法によるイメージの測定(1)－解説と実験－ 6. SD法によるイメージの測定(2)－データの整理－ 7. SD法によるイメージの測定(3)－解析－ 8. 一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験－ 9. 一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理－ 10. 一対比較による好悪の尺度化(3)－解析－ 11. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法(1)－解説と評定－ 12. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(1)－解説と評定－ 13. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(2)－整理と解釈－ 15. 講評 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習として参考書の該当実験のページに目をとおしておく。(学習時間：90分) 授業後学習としてレポートの仕上げをする。(学習時間：90分)						
授業方法	実習形式でおこなう。 次の実験までに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出するようにする。						
評価基準と評価方法	レポート80% (締め切り厳守)、実験への取り組み20% レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。都合により欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにすること。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	神戸論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちとその特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と開港 第3回 外国人居留地の歴史と現在 第4回 神戸の外国人とコミュニティー 第5回 神戸の近代建築 第6回 神戸の洋食へ外国料理 第7回 神戸の中国料理と南京町 第8回 神戸の洋菓子、パン 第9回 神戸の観光（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第10回 神戸の地勢、自然と公園 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 神戸と阪神間モダニズム 第13回 阪神淡路大震災と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること（1時間）。その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地ージャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	国際ビジネス						
担当教員	福田 洋子					科目ナンバ-	U72540
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒト・モノ・カネ・情報が国境を超えるとときに何が起こるのか、国際ビジネスの実態とその環境変化を学ぶ。						
授業の概要	国際ビジネスを理解するために必要な基本的ビジネス英語と、経営・金融などの基礎を学ぶ。そして、世界的な企業や特色ある企業を具体的にケーススタディなどで考察し、その成功や失敗の要因を探る。また、アメリカ経済、ヨーロッパ経済、アジア経済の特徴について理解を深める。						
到達目標	グローバル企業（外国企業、海外とのビジネスを実施している日本企業）で必要とされる基礎的な知識とスキルを得る。また、発展している企業をグループで研究しその特長を発表する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 国際経営の基本 3. 日本のグローバル企業 4. 世界の主要市場 5. 国際経営における新製品（新サービス）の開発 6. サービス産業の国際化 7. 国際経営のCSRとグローバル行動基準 8. 国際経営の人的資源 9. グローバルなキャリアをデザインする 10. グローバリゼーションの方向性 11. ケーススタディ（グループで実施） 12. グループ研究Ⅰ（バズセッション方式） 13. グループ研究Ⅱ（発表の準備） 14. グループ発表と質疑応答 15. まとめと筆記試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：世界のビジネス情報に関心を持つ。教科書を予習する。社会全体に関心を持つ。ニュースを知る。</p> <p>授業後学習：学んだ内容の復習。専門用語を理解し、知識を蓄積する。</p> <p>関心のある企業に関する記事をスクラップしておくことを推奨する。</p>						
授業方法	講義形式だが、できる限りグループディスカッションを取り入れる。VTRやDVDを活用し理解を助ける。グループ発表や、質疑応答を実施する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、提出物やグループ発表、授業中の積極性など50%の総合評価です。						
履修上の注意	できるだけ「インターンシップ」などに参加することや、グローバル企業で働く人たちの考え方・働き方に触れる機会を持つ。						
教科書	『最新「国際経営入門」』、高橋 浩夫著、同文館出版、ISBN978-4-495-39009-9						
参考書	『1からの経営学』、加護野 忠雄・吉村 典久編著、中央経済社、ISBN4-502-38930-7 C3034						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	産学連携プロジェクト演習A						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	U2241A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、自分の抱く課題を教員の指導を受けながら自ら解明しようとする科目であり、課題を専門知識やマネジメント・スキルを駆使して論理的にほぐしながら、洞察力や思考力を訓練する。①都市生活の実態についてフィールドを通じて理解し、②持続可能な発展や地域活性化方策について多面的に考察する能力、③自ら主体的に企画立案し、創造的な研究を遂行していく能力、④論理的に思考し、討論する能力、効果的にプレゼンテーションできる技術、などである。地元の食に関して関心を抱かせる。						
授業の概要	都市生活というフィールドにおいて、全体の説明を行った後に各自が自ら課題を設定をして、地域活性化や地元の企業の役割について理解を深める。その後、課題を取りまとめて整理したうえでプレゼンを行う。						
到達目標	①都市生活という学外のフィールドに目を向けて関心を持つ。 ②自ら地域活性化などについて課題設定を行えるようになる。 ③グループ内での発言、プレゼンを効果的に行える力を養う。						
授業計画	第1回 導入と全体説明 第2回 都市生活についての理解1(全体論) 第3回 都市生活についての理解2(地域活動) 第4回 都市生活についての理解3(ビジネス) 第5回 都市生活についての理解4(神戸の特色) 第6回 各受講者の課題発見 第7回 地域活動の専門家による情報提供 第8回 各自の課題をもとにしたグループワーク 第9回 訪問先企業・団体の事前研究 第10回 訪問先企業・団体の事前調査・連絡 第11回 フィールドワーク先での活動 第12回 フィールドワーク調査の整理 第13回 フィールドワーク調査のまとめ 第14回 調査のまとめを受けたグループ討議 第15回 発表会、全体のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	都市生活に対して、日頃から関心を持ち課題意識を研ぎ澄ませること						
授業方法	基本は教室で行い、一部、地域活性化の専門家によるレクチャーや企業や団体を訪問する予定。						
評価基準と評価方法	出席・発表などの日常の取り組み(40%)、レポート(60%)						
履修上の注意	「自ら課題を設定する」、「発表を行う」など、受け身ではなく主体的な取り組みが必要になる。						
教科書	特に定めない						
参考書	特に定めない						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	産学連携プロジェクト演習B						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	U2241B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	産業連携プロジェクト演習Aで、地域の諸問題を発見し、持続可能な生活や地域の活性化策について理解したうえで、産学連携プロジェクトBでは、地域と学生が共同参画できる取り組みについて模索し、より実践的な力を養うことを目的とする。実際にフィールドを通してより具体的に地域の諸問題を理解し、地元の食（食生活を含めて）や環境など生活にかかわるすべてのことから創造を膨らませ、自らが主体となって取り組める企画を立案し実践できる力を養う。						
授業の概要	産業連携プロジェクト演習Aでの各自の課題から出発して、それを演習Bではグループ議論を通じてグループ毎に課題設定を行う。それをもとにフィールドワークに出て、地域の諸課題、地元の食や環境について課題解決に向けて企画して実践することを目指す。						
到達目標	①都市生活に対する自らの課題設定を深める ②他の参加者との議論の中で、都市生活のフィールドでの視野を広げる ③実際のフィールド活動の中で、自らの課題解決に向けた実践力を養う						
授業計画	第1回 導入と全体説明 第2回 演習Aの自己設定課題の確認 第3回 演習Aの自己設定課題のメンバー共有 第4回 演習Bのグループ課題検討 第5回 演習Bのグループ課題決定 第6回 フィールド先の状況確認 第7回 フィールド先とグループ課題とのすり合わせ 第8回 フィールド先と共同参画について連携 第9回 フィールド先と共同参画について課題検討 第10回 フィールド先での活動1 第11回 フィールド先での活動2 第12回 コラボ活動の整理 第13回 課題解決に向けたグループ討議 第14回 課題解決に対するプレゼンテーション 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	都市生活に対して、日頃から関心を持ち課題意識を研ぎ澄ませること						
授業方法	基本は教室で行い、地域活性化の専門家によるレクチャーやフィールド先との共同参画を行う。						
評価基準と評価方法	出席・発表などの日常の取り組み（40%）、レポート（60%）						
履修上の注意	「自ら課題を設定する」「フィールド先との共同参画」「発表を行う」など、受け身ではなく主体的な取り組みが必要になる。						
教科書	特に定めない						
参考書	特に定めない						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	U22030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単準無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。（学習時間60分） また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。（学習時間120分）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。 授業集の課題についてはその都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標に従って評価する。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とする。社会調査に必要な資料やデータの収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2013、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版」法律文化社

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	U22030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単準無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。（学習時間60分） また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。（学習時間120分）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。 授業集の課題についてはその都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標に従って評価する。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とする。社会調査に必要な資料やデータの収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2013、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版」法律文化社

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵					科目ナンバ-	U22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析などの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、これら質的研究・質的調査の技法を学びながら、問題設定や仮説にもとつき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データを収集および分析していく方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。 既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析(1)～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析(2)～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析(3)～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析(4)～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析(1)～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析(2)～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析(3)～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析(4)～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析(1)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソロジー（相互行為分析）などがある。 問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析(2)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析(3)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析(4)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。 また、授業時間内で完了しなかった作業については翌週までに完了させておく。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。						

履修上の注意	授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等について連絡をとるため、授業冒頭で連絡先（メール）を提出させることがある。時間外での質問や相談は基本的にメールで受け付ける。 （ただし出席数や成績についての確認は直接授業の前後で行うこと。 また、授業に欠席した場合は各自、初回に説明した方法で配布資料や課題などを確認しておくこと。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習II						
担当教員	松原 千恵					科目ナンバ-	U22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析などの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、これら質的研究・質的調査の技法を学びながら、問題設定や仮説にもとつき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データを収集および分析していく方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。 既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析(1)～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析(2)～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析(3)～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析(4)～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析(1)～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析(2)～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析(3)～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析(4)～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析(1)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソロジー（相互行為分析）などがある。 問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析(2)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析(3)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析(4)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。 また、授業時間内で完了しなかった作業については翌週までに完了させておく。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。						

履修上の注意	授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等について連絡をとるため、授業冒頭で連絡先（メール）を提出させることがある。時間外での質問や相談は基本的にメールで受け付ける。 （ただし出席数や成績についての確認は直接授業の前後で行うこと。 また、授業に欠席した場合は各自、初回に説明した方法で配布資料や課題などを確認しておくこと。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査論						
担当教員	佐々木 洋子					科目ナンバ-	U21060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査が出来るようになるための基礎的事項を解説する。これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から、現地調査の実施の方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを、量的・質的調査の双方について概説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。						
授業の概要	社会調査の意義と諸類型に関する基礎的事項を解説する。国勢調査や官公庁統計、世論調査、マーケティングリサーチなどの実例を基に、社会調査が我々の社会でどのように行われ、またその結果がどのように活用されているのかということを理解する。次に、社会調査史を振り返り、これまでに行われてきた調査の目的や種類などを検討し、これまでに生じてきた方法論的問題や倫理的問題を紹介する。それを踏まえて最終的には、実際に調査を行う際のデータ収集方法から分析までの諸過程に関する基礎的な知識と技術を修得させる。						
到達目標	社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査ができる。また、公表された社会調査結果を読み解くことができる。						
授業計画	第1回 社会調査の意義と用途 第2回 社会調査の歴史 第3回 社会調査のうそ 第4回 問題意識の明確化 第5回 関連データ収集一定量データと定性データ 第6回 概念・指標・変数 第7回 仮説構成とモデルづくり 第8回 実査と調査倫理 第9回 調査の種類と実例Ⅰ 調査目的別 (学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査) 第10回 調査の種類と実例Ⅱ 調査時点別 (クロスセクションサーベアー・継続調査・パネルサーベアー) 第11回 調査の種類と実例Ⅲ 調査地点別 (地域調査・全国調査・国際比較調査) 第12回 量的調査と質的調査 第13回 統計調査と事例研究法 第14回 二次データの利用 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(詳細は授業菜時で指示)(学習時間90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の復習および講義中に紹介する社会調査およびテレビ、新聞、インターネットなどで見かける社会調査について調べる。また、定期的に課題を課す(学習時間90分)						
授業方法	講義形式で行う。また、一部ペアワークやグループワークを行うことがある。						
評価基準と評価方法	授業内課題(30%)：毎回提出してもらうリアクションペーパーや、定期的に課す課題により評価する。 期末試験(70%)：授業で扱った内容の理解度について、到達目標の観点から評価する。 課題等に対するフィードバックの方法：授業内で解説する。						
履修上の注意	他の受講生に迷惑をかけること。						
教科書	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2013『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房 9784623066544						
参考書	轟亮・杉野勇編, 2013『入門・社会調査法〔第2版〕——2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 9784589034892 その他、随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生涯発達論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U11040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達段階をととしたヒトの身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。						
授業の概要	発達段階をととした人間の身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。人間の発生時における遺伝によって子供へ受け継がれる形質、出生後の脳や感覚器官の発達、認知機能の心理生理的発達と脳の変化、社会性の心理的発達、成人し結婚する際の心理的課題、自らが親になる際の母性や父性の出現と役割、のように発達段階をととして獲得していく生理的変化、身体の構造や心理社会的スキルを知る。常に成長する人間を生物として考える目を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に関する基本的な用語の説明をすることができる。 2. 発達段階における心理社会的スキルを行動面と機能面から解説することができる。 3. 遺伝、結婚、発達における行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べるることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の紹介 2. 遺伝と両親 3. 遺伝と行動 4. 遺伝と環境 5. 脳の発達 6. 感覚の発達 7. 感情の発達 8. 脳の発達とストレス 9. 性差 10. 共感 11. 意欲 12. 幸福感 13. 幸福感と結婚 14. 母性・父性 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次回講義のテーマに関して自分の身の回りにある疑問を言語化する。（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容を整理・確認する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義形式で授業を実施する。教室内でできる簡単な実験や演習も含まれる。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)、試験(70%) 小レポートは評価後返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	3分の2以上の出席が必須である。授業中、私語、電子機器の操作を禁止する。						
教科書	プリントを適宜用いる。						
参考書	「幸せを科学する」 新曜社、ISBN：978-4-7885-1154-5 「ミラーニューロン」 紀伊国屋書店、ISBN:978-4-314-01055-9						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費行動論						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	U12100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	私たちはなぜ買い物をするのかを考える						
授業の概要	日本のような現代の先進国は大衆消費社会であり、人間の欲望・要求を実現するとともにさらに拡張していく経済システムの下、何を買うか選択することが生活の中で大きな位置を占めている。買い物が生活の中心であるからこそ、なぜ買い物するのか客観的に考える力を持たなければならない。この授業では、消費社会と欲望・欲求を論じたテキストによりながら、どのような欲求に基づいて買い物をするのかということと、過剰な消費社会における欲求のコントロールについて考える。加えて、心理学、行動経済学の研究成果から人間が買い物する時に示す心理・行動傾向を学び、現代社会における消費者の心理と行動を客観的に論じることのできる力を養う。						
到達目標	なぜ私たちが買い物をするのか心理面から分析できる。 現代社会における欲求のコントロールの難しさや方法について説明できる。 買い物の際に人が示す認知・行動傾向の基本を説明できる。						
授業計画	第1回 はじめに一買い物の無い生活 第2回 大衆消費社会の成立 第3回 なぜ万引きをするのか—欲求と動機を考える 第4回 欲求とは何か 1：基本的欲求 第5回 欲求とは何か 2：内発的動機と親和動機 第6回 欲求とは何か 3：達成動機と自己実現動機 第7回 欲求の模倣 第8回 欲求のコントロール 1：買い物依存の心理 第9回 欲求のコントロール 2：大衆消費社会と欲求 第10回 商品選択の心理：選択の負担 第11回 価格の相対性 第12回 予測の効果 第13回 損して得取る難しさ 第14回 時間の影響 第15回 商品選択の方略						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内容を復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間90分）。 特に関心を持った部分について参考書を読む（学習時間90分）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50% 中間レポート 30%、期末レポート 20%（ただし、両レポートの提出が必須）						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「消費の心理」						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。						
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。 ②自らの消費者行動を振り返り、身の回りの変化に関心を高めることができる。 ③消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な知識を身につけることができる。 ④持続可能な社会の形成を考えるきっかけとなる。						
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する） 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ） 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出は美化される？） 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いはいどのように生まれるのか） 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか— 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果— 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？— 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？— 第13回 ステータス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？— 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー） 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	常に新聞やテレビを見て情報を集めておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価						
履修上の注意	①新聞必読 ②授業中の携帯電話、メール、居眠り、20分以上の遅刻・途中退出など、厳しく対処する。						
教科書	松井剛・西川英彦編著『1からの消費者行動』、2016年、中央経済社						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活論						
担当教員	吉井 美奈子					科目ナンバ-	U12110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	消費生活の現状を消費者と生産者双方の立場から捉え、消費者が権利の主体として意識を持ち、自ら情報を選択し行動することによって持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立をする。						
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。 ・ 消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を理解することができる。 ・ 消費者の権利と責任を実践していく仕組みを理解することができる。 ・ 持続可能な社会の形成を考えることができる。 						
授業計画	第1回 経済の発展と消費生活（家庭生活） 第2回 消費生活の視点 - 社会の変化と消費生活 - 第3回 生活における経済の計画と管理 第4回 財・サービスの選択と意思決定 - 広告と企業活動 - 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者 第6回 消費者問題 第7回 消費者の権利と関係法規 第8回 契約と消費生活（ゲストスピーカー） 第9回 決済手段の多様化と消費者信用 第10回 商品情報と消費者相談 第11回 消費者の自立支援と行政 第12回 消費者教育 第13回 消費生活と環境 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動 第15回 環境問題と消費者の関係（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書を読んで予習をしておくこと。 身近なニュースに関心を持っておく。。						
授業方法	講義を中心に、演習をすることがある。						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価						
履修上の注意	教科書を読んで、予習をしておくこと。 発表等あるので、準備などをしっかりとする。 遅刻は15分以内、それ以降は欠席とする。 授業に積極的に参加すること。						
教科書	神山久美・中村年春・細川幸一（編著）『新しい消費者教育：これからの消費生活を考える』、2016年、慶応義塾大学出版会						
参考書	適宜、講義内で紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U72220
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食行動の心理学						
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。母乳の心理的意味、食の嗜好や嫌悪の発達、集団における食行動の変容、食環境の心身に対する影響、食にまつわる行動異常などについて論じる。生涯にわたる自分自身や家族の健康を食の観点から考え、実践できる方法を身につける。						
到達目標	1. 各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。 2. 個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べるすることができる。						
授業計画	1. 授業の概要 2. 離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク－ 3. 離乳期までの食行動(2)－母乳の育てる仕組み－ 4. 離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面－ 5. 幼児期の食行動(1)－味覚の発達－ 6. 幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達－ 7. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定－ 8. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し－ 9. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表－ 10. 児童期の食行動(1)－特徴と問題点－ 11. 児童期の食行動(2)－食行動と身体の状態－ 12. 児童期の食行動(3)－食卓の絵からの考察－ 13. 青年期の食行動(1)－思春期の食に関わる心と体の病気－ 14. 青年期の食行動(2)－摂食障害－ 15. まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：次回の授業の内容に関する疑問を言語化する。(学習時間：90分) 授業後学習：授業でとりあげた内容を確認し、そのことを実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。(学習時間：90分)						
授業方法	主に講義形式。演習も実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)：演習において提出されたレポートを評価したものを後日返却しフィードバックする。 試験(70%)：授業でとりあげた、各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を確認し、自分の考えを述べるかについて評価する。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。電子機器の操作を禁止する。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「人間行動学講座2 たべる－食行動の心理学－」 中島義明、今田純雄編 朝倉書店 1996 4800円 「母乳」 山本高治郎著 岩波新書 1983 490円 「未熟児」 山内逸郎著 岩波新書 1992 580円 「子どもと家族とまわりの世界(上)赤ちゃんはなぜなくの」 D・W・ウィニコット著 星和書店1985 1400円 「知っていますか 子どもたちの食卓 一食生活からからだと心が見える」 足立己幸 NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト 日本放送出版協会 2000 1500円						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食生活論						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U11020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。						
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、食品の持つ「食生活と栄養（5大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。次に、「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と安全」、「食生活と環境」などについて解説する。健康とは何か、そして、健康な生活を送るために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目的とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養についての問題に回答できるようになる。 ・食生活、調理、食文化についての問題に回答できるようになる。 ・食生活と健康についての問題に回答できるようになる。 						
授業計画	第1回 人の一生と食事 第2回 食生活と栄養（糖質・脂質） 第3回 食生活と栄養（タンパク質・ビタミン） 第4回 食生活と栄養（ミネラル・水） 第5回 食生活と食品の成分（アルコール、嗜好品、免疫力） 第6回 食生活と調理 第7回 食生活と食文化（米文化と小麦文化） 第8回 食生活と食文化（食事様式、マナー、旬） 第9回 ライフサイクルと食生活（成長期） 第10回 ライフサイクルと食生活（成人期以降） 第11回 体のリズムと食生活 第12回 食生活と安全 第13回 食生活と環境 第14回 食育の意義 第15回 家庭や地域における食育の推進、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 授業後：配布プリントなどを使い学習内容を復習してノートにまとめる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業における発表など10%、課題40%、期末テスト50%						
履修上の注意	内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	大学で学ぶ食生活と健康のきほん 吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 化学同人 適宜プリントを配布						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食と農の地域インターンシップ						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U22420
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食卓に上る食べ物が現場でどのように作られているのかを知り、農場から食卓までのプロセスを理解することを目指します。						
授業の概要	自分たちの手で、安心な食と環境づくりについて学びながら、食や環境についての課題を探ります。さらに、技術や専門知識を深めるとともに、将来の夢やキャリア形成を考える機会を提供します。異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力など基礎的な実践力を養い、食・農業に関する理解の深化と実践的な立案・調整能力を身につけます。						
到達目標	①農場から食卓までにプロセスを理解する。 ②安心な食の環境づくりについて理解を深める。 ③将来のキャリア形成を考える。 ④異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力を養う。						
授業計画	<p>【集中講義】</p> <p>(本学)</p> <p>第1回 新しい時代の食・農・環境の農学へ 第2回 農業をめぐるグローバルな関係 第3回 日本の食と農の今 第4回 諸外国の農業の実態：「アフリカの農業の今」</p> <p>(※第5回～第12回まではインターンシップ：課題解決のカギを学ぶ)</p> <p>第5回 食料・農業と環境の関わり 第6回 歴史の中の日本の農業 第7回 過去より問う環境とのかかわり 第8回 生産の場の環境 第9回 毎日の食と食文化 第10回 農業を通じた異文化交流と食の現状 第11回 持続可能な社会に求められる人材を目指して 第12回 農業の展開と環境・資源問題</p> <p>(本学)</p> <p>第13回 プレゼンテーションの作成 第14回 プレゼンテーション：実習報告会 第15回 持続可能な社会に求められる人材を目指して</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	①農業や食に関する新聞や雑誌の話題をつかんでおくこと。 ②兵庫県の特産品を確認、整理。						
授業方法	講義と実地研修(インターンシップ)						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 平常点(インターンシップの参加も含む)50%：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問など)により評価する。到達目標に関する到達度の確認。 プレゼンテーション 30% レポート課題 20%						
履修上の注意	①授業回数の3分の1以上欠席した人は評価基準を失うものとする。 ②学外実習の費用(交通費や入館料、参加費など)は、自己負担とする。						
教科書	『知っておきたい食・農・環境』龍谷大学農学部食料農業システム学科編、昭和堂、ISBN978-4-8122-1543-2						
参考書	随時紹介していきます。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食農教育論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U72620
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしい食の追求						
授業の概要	本講義では、①“食育から食教育、そして食農教育へ”、成長期の子どもから成年・中高年層に対しての生涯食農教育を実践し、②栄養主体から食べ物と食べ方のかかわり=人間らしい食の追究を行う。③モノが生産される生産現場から素材を学び、流通・消費までの理解を深める。食の商品化・情報化の中で、日本の食材・調理・味覚・食べ方をしっかりと伝え、古と頭脳に刷り込み、心豊かな人間・コミュニティづくりに努める。						
到達目標	(1) 農と食のつながりを理解し、現代の日本の食の問題を意識することができる。 (2) 日本の食材・調理・味覚・食べ方を理解し、伝えることができる。 (3) 日本の食文化を理解し、心豊かな人間・コミュニティづくりにつなぐ方策を身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、人間らしい食とは、食と農 第2回 日本の食と農の昔と今 第3回 食育・食教育の背景 第4回 食農教育とは 第5回 行政の取り組み 第6回 学校の取り組み 第7回 地域社会の取り組み 第8回 直売所の取り組み 第9回 企業の取り組み 第10回 家庭の取り組み 第11回 食農教育指導者に聴く「ゲスト・スピーカー招へい予定」 第12回 これからの食農教育の課題 第13回 食農教育とコミュニティづくり 第14回 人間らしい食とは 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマについて関連文献で予習をする。(学習時間：60分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理をし、考察する。(学習時間：120分)						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークも行う。講義ではプリントを配布し、パワーポイントや映像を用いる。各自が食生活を客観的にふり返り、今後の食農教育やコミュニティづくりに向けた提案ができるように様々な具体例を紹介する。授業の終わりには、各回の課題についてまとめる時間をとり、ミニレポートを作成して提出とする。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験40% ：授業内容全般についての理解度、興味・関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題30% ：問題点の提示、問題解決に向けての具体的な提案を評価する。到達目標(1)および(3)に関する到達度の確認。 受講態度30% ：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性およびグループワークでの積極性について評価する。到達目標(1)および(2)(3)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	履修上の注意 授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	なし プリントを配布する。						
参考書	『教育農場の四季』、澤登早苗著、コモンズ、ISBN 4-86187-004-6 『土に生きるふるさとの味』第1集～第5集、村田文子、第三書館、ISBN 978-4-8074-0910-5(第1集) ISBN 978-4-8074-0911-2(第2集) ISBN 978-4-8074-0912-9(第3集) ISBN 978-4-8074-0913-6(第4集) ISBN 978-4-8074-0914-3(第5集)						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U72420
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の保存の原理や保存方法、加工の工程、食品添加物などについて学ぶ。						
授業の概要	私たちの身の周りの多くの食品は、収穫されたそのままの形ではなく、加工が施され栄養性や嗜好性が改良された加工食品である。消費者の嗜好の多様化、健康・安全志向、生活の合理化などから、加工食品の占める割合や価値は高まり、さらに質と量の充実が図られていくと予想される。本講義では、食品の加工・貯蔵に関する理論や、食品の加工技術、および加工食品を選択する際に欠かせない食品表示の見方などについて、①植物性食品、②動物性食品、③その他の食品について解説する。						
到達目標	加工食品の利点や欠点を理解して、実生活に応用できる力を身に付ける。						
授業計画	第1回：加工の目的、原理、概要 第2回：農産食品の加工（穀類・イモ類の加工） 第3回：農産食品の加工（豆類・野菜・果実類の加工） 第4回：畜産食品の加工（肉類の加工） 第5回：畜産食品の加工（牛乳・卵の加工） 第6回：水産食品の加工 第7回：食用油脂および調味食品 第8回：嗜好食品およびインスタント食品 第9回：食品の加工法 第10回：食品の保存法 第11回：食品の包装 第12回：加工食品の規格と表示制度 第13回：加工食品と食品衛生 第14回：食品業界の現状 第15回：まとめ 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 授業後：配布プリントなどを使い学習内容を復習してノートにまとめる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	受講状況10%、小テスト40%、期末テスト50%で評価する。						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	新食品・栄養科学シリーズ 食品加工学（第2版）食べ物と健康3 化学同人						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学実験						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U22430
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各種加工食品を製造することにより、食品加工の原理を深く理解する。						
授業の概要	加工食品は私たちの食生活に不可欠なものであるが、本実験はその加工原理や貯蔵方法などを科学的に理解することを目的としている。						
到達目標	加工食品を実際に製造することにより、その加工原理および製造方法を述べることができるようになる。						
授業計画	第1回 諸説明 第2回 豆類の加工 みそ仕込み 第3回 乳類の加工 ヨーグルト 《実験1》ヨーグルトのpH測定 第4回 種実類の加工 ピーナツクリーム 第5回 菓子類の加工 キャラメル・パタースカッチ 《実験2》砂糖の加熱温度の違いによる変化 第6回 いも類の加工 こんにゃく 第7回 穀類の加工 うどん 《実験3》グルテンの分離 第8回 乳類の加工 アイスクリーム まとめ1 レポート提出 第9回 乳類の加工 フレッシュチーズ 第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ ピクルス 《実験4》可用性固形成分の測定 第11回 肉類の加工 ソーセージ 第12回 豆類の加工 豆腐 第13回 乳類の加工 バター 《実験5》製パン発酵条件の比較 第14回 果実類の加工・びん詰めの製造 りんごジャムびん詰め みそ官能評価 第15回 乳類の加工 乳酸飲料 まとめ2 レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：実習・課題レポートの準備 授業後：実習・課題レポートの作成・完成						
授業方法	実習、一部簡単な実験を含みます						
評価基準と評価方法	授業への取り組み30%、レポート70%						
履修上の注意	食品アレルギーのある学生は事前に連絡してください。対応します。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品貯蔵学						
担当教員	渡辺 敏郎					科目ナンバ-	U72430
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食品貯蔵（食品加工）について認識を深め、日常の食生活に応用する。						
授業の概要	近年、流通手段の発達やライフスタイルの多様化により加工食品の割合が増加している。本講義では食品素材を分類別に加工原理や加工工程、貯蔵（保存）法とその原理、食品の包装、加工食品の規格や表示などについて解説する。						
到達目標	(1) 食品貯蔵の特性、加工食品の利点および欠点を理解することができる。 (2) 食品貯蔵の知識を日常の食生活にうまく利用できるようになる。						
授業計画	第1回：食品加工・貯蔵の意義 第2回：農産食品の加工と貯蔵（穀類、豆類、いも類） 第3回：農産食品の加工と貯蔵（野菜類、果実類、きのこ類） 第4回：畜産食品の加工（畜肉類） 第5回：畜産食品の加工（乳類、卵類） 第6回：水産食品の加工（水産食品の特性と貯蔵） 第7回：水産食品の加工（水産加工品） 第8回：食用油脂と調味食品 第9回：嗜好食品とインスタント食品 第10回：食品の加工法（物理的な作用による加工） 第11回：食品の加工法（化学的および生物的作用による加工） 第12回：食品の保存法・貯蔵法 第13回：食品の包装 第14回：加工食品の規格と表示制度 第15回：加工食品と食品衛生（定期試験対策）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習はしなくてよいが、復習はその日のうちに30分以上の時間をかけて確認・整理する。わからないことや疑問に思うことは次回の講義前に教員に聞くこと。						
授業方法	授業はパワーポイントを使用して講義する。事前に次回おこなう講義の授業計画を確認しておくこと。毎回授業の終わりにその回の授業内容に関する問題を出し解説するので、各自きちんと復習すること。						
評価基準と評価方法	評価の方法：定期試験（筆記）と平常評価 評価の内容・基準：定期試験（筆記）90%、平常評価（授業態度など）10%						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たないものは受験資格を失う。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品の流通論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U72530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食料（食品）の生産・流通・消費までの流れを具体的かつ総合的に把握することを目的とする。（フードスペシャリスト試験科目）						
授業の概要	情報・技術の発達によりフードシステムが変化している。その要因は、所得の上昇や家族生活の変化、供給側の対応などが考えられる。 本講義では、食生活の外部化に依存している家族の食生活の変化を捉えながら、提供側である小売業・卸売業の実態と変化、さらに生鮮三品や米・小麦・加工食品など様々な食材や食品分野をケースに取り上げながら、その流通と消費実態を考察する。そして、フードマーケティングの視点から今日の食料（食品）問題と流通のシステムの変化について考えていく。						
到達目標	①生産現場の仕組みを理解し、特徴を説明することができる。 ②生産されたモノが消費者に渡るまでの流通プロセスを理解し、現代の流通の課題について自らの考えを述べることができる。 ③具体的な事例をもとに、流通の仕組みについて批判的に捉える事が出来る。 ④食育や環境問題についての実践的な行動を目指すことができる。						
授業計画	第1回目 食市場の変化—消費者の変化と食生活— 第2回目 食品流通の役割と社会的使命 第3回目 食品流通と食品市場① —食品小売業とスーパーマーケット— 第4回目 食品流通と食品市場② —外食産業とコンビニエンスストア— 第5回目 PBとNBとは何か 第6回目 食品流通と食品市場③ —卸売市場— 第7回目 食品流通と食品市場④ —食品卸売市場— 第8回目 食品流通と食品市場⑤ —生協の共同購入— 第9回目 主要食品の流通—生鮮三品—（ゲストスピーチの予定） 第10回目 主要食品の流通—米・小麦・乳飲料・大豆の流通— 第11回目 主要食品の流通—漬物・惣菜・食用油脂・菓子の流通— 第12回目 加工食品の流通と消費①（学外実習） 第13回目 清涼飲料・輸入食品の流通と消費②（学外実習） 第14回目 フードマーケティングと食料消費の課題 第15回目 消費スタイルと流通技術・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	① スーパーや百貨店をはじめコンビニなどがどのような食品を扱い、管理しているのか現場を観察しながら現状を理解する。 ② 新聞を必ず読むこと（特に食品問題）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験50%、レポート（2回）30%、発表20%						
履修上の注意	①新聞必読 ②10回以上の出席がないと、受講資格はありません。 ③現場視察のため学外実習を行うこともある。入場料・交通費などの実費負担がある。						
教科書	日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』建帛社、2016年。						
参考書	石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、その他授業中に随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	色彩学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U72140
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。						
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。						
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる。 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる。 色と光の関係について科学的に説明することができる、 生活と色に関する諸問題について考察することができる。						
授業計画	第1回：色の性質、色と心理 第2回：色を表し、伝える方法(色の表示方法とその特徴) 第3回：カラーオーダーシステム(マンセルシステム) 第4回：カラーオーダーシステム(CCIC) 第5回：カラーオーダーシステム(NCS、PCCS) 第6回：色彩調和の考え方 第7回：これまでのまとめと中間試験配色 第8回：配色と色彩調和 第9回：光から生まれる色 第10回：色が見える仕組み 第11回：色の測定 第12回：混色と色再現 第13回：まとめと期末試験 第14回：学外研修事前学習 第15回 学外研修、確認テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習(60分) 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント(60分)						
授業方法	講義、一部演習を含む。学外研修(神戸ファッション美術館※予定)						
評価基準と評価方法	平常点(受講態度、課題)40%、試験60% 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修の交通費と入館料は自己負担。実施時期は土曜日または補講期間の予定。 2. 教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 3. 配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。						
教科書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所(中央経済社) ISBN:978-4502445804 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住行動論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U72230
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の「生活」と「住行動」の関わりについて考える						
授業の概要	本講義は、人間にとって最も身近な生活環境である「住まい」を中心的に扱う。住まいと人間との関わりから、人間行動とそれに伴う心理状態の変化などの具体例を紹介する。また、都市で発生する諸問題（騒音、日照権、ゴミ問題等）、高齢者や障がい者との共生のための住まいのあり方などを取り上げ、家族、地域、世代等に着眼し、人間関係や諸環境間の関連について、批判的に考察する基礎的能力を養う。さらに、本講義で学んだ内容を、自らの生活環境を改善する実践へと発展させるような展開を図る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な住環境を批判的に考察し、改善案について間取り図を作成することができる ・身近な住環境に潜む問題に気づき住行動からの改善を図ることができる ・現在の自分、これからの自分を見据えた住まい方のプランについて述べるることができる 						
授業計画	第1回 講義形態の確認、住まいに関する関心度アンケート 第2回 身近な住まいへの着眼 第3回 身近な住まいに関するグループワーク（発表含む） 第4回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしに必要な情報） 第5回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしの人生設計と住まい） 第6回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・学童期） 第7回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・青年期） 第8回 家族のライフステージと住まい（高齢期の住まい・高齢（単身）世帯） 第9回 家族のライフステージと住まい（多世代同居と住まい） 第10回 共生社会と住まい（ペットと住まい） 第11回 共生社会と住まい（バリアフリー、ユニバーサルデザイン） 第12回 共生社会と住まい（持続可能な社会と住まい） 第13回 共生社会と住まい（多文化共生と住まい）※ゲストスピーカー 第14回 共生社会と住まい（多様な家族形態と住まい） 第15回 住行動に関する終講課題及び講義総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：講義計画に記したキーワードについて自分なりに予習する。 授業後：講義内容について、疑問点を整理し自ら調べる。残った疑問点については次回に質問する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	終講課題(60%)、授業の参加態度・ワークシート記入状況(40%)などを含め総合的に評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業内容に応じて資料を配布する。						
参考書	住まい15章研究会、「住まい15章 改訂版」、学術図書、2008、第12刷。（ISBN: 4-87361-812-6）。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住生活論						
担当教員	平田 陽子					科目ナンバ-	U11030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の修得と現代の住まいに関する課題の理解						
授業の概要	現代日本の都市生活において、多くの人々が住まいの狭小性、老朽化、設備の不備、バリアあるいは周辺環境などでの不満や不安感を抱いている。また、先の阪神大震災が示したように、住まいの問題は多様で山積している。このような住まいに関して、基礎的知識や意味・重要性を概説し理解を深める。内容は、住まいとはなにか、その歴史と現代住宅の多様性、家族の変容、高齢化、環境共生、あるいは衣や食なども視野に入れながら、住まいの実態・今後のあり方について、最近のトピックスを交えながら講義を進める。私たちが毎日暮らしている住居に関する入門科目として、住居の基本概要、および現代の住まいに関する重要事項である高齢者居住、子どもの生活空間、住まいの再生、超高層住宅などを理解する。						
到達目標	日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取り、現代の課題などの基礎項目について、自分の言葉で語るができるようになること						
授業計画	第1回 オリエンテーション、すまいの色々 第2回 日本の住まいの特徴 第3回 住居の歴史（古代～中世まで） 第4回 住居の歴史（近世） 第5回 住居の歴史（近代） 第6回 間取りの特徴 第7回 間取りの制作（自宅の間取り図作成）＋小テスト1 第8回 高齢者の生活空間 第9回 子どもの生活空間 第10回 戸建て住宅の問題 第11回 集合住宅の問題 第12回 高層居住の問題 第13回 公的賃貸住宅の再生 第14回 マンションの大規模修繕と再生 第15回 学生からの自宅再生提案＋小テスト2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で使ったプリント類を復習したり、予め予習するなど積極的に取り組んでほしい。日頃から新聞やテレビで取り扱われる住宅の情報や、街を歩く際には街並みなどにも関心をもって欲しい。						
授業方法	プリントを配布し、パワーポイントを用いた講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（20%）、小テスト（30%×2回）、レポート（20%）						
履修上の注意	授業には遅刻や欠席をしないで取り組んでほしい。欠席回数が多い場合には、単位を出さない場合がある。						
教科書	特になし						
参考書	・湯川聡子・井上洋子著、「住居学入門」、学芸出版社、ISBN4-7615-2237-2						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	情報社会論						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U72040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活、仕事などの身近な問題をテーマに情報社会を社会的に捉えていく						
授業の概要	情報化社会とされる今日、我々は、日常生活における様々な問題を解決するために、情報を正確に捉える力や分析する力が求められている。また「情報」と「職業」の接点を考察することは、自身のキャリア形成を考える際や、就職活動に取り組むときに必要な視点となるといえる。この授業では、急速に発展する情報社会を社会的に捉え、仕事、生活をしていくうえで必要な情報の収集、発信の方法や、若者文化におけるSNSの危険性や情報モラルについて考えていく。						
到達目標	○情報社会の諸問題を社会的に捉える力を養う ○情報社会に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 情報社会の成立 第3回 情報社会の進展 第4回 インターネットの普及 第5回 情報化とプライバシー 第6回 若者文化と情報-若者にとって「つながる」とは何か- 第7回 若者とインターネット 第8回 ネットいじめ問題 第9回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の有効性 第10回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の危険性 第11回 情報モラルとは 第12回 情報社会と職業-情報化がもたらす仕事の変化- 第13回 大卒就職とインターネット 第14回 生涯学習社会とインターネット 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	情報社会に関するトピックスに日常から関心を持ち、理解を深めておくこと。						
授業方法	講義を中心に、必要に応じてディスカッションを行う						
評価基準と評価方法	課題試験 70% レポート 30%						
履修上の注意	3分の1以上の欠席は履修を認めない。						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U01010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ						
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している 個人のライフコースにおける諸課題が説明できる 現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる 						
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆 第15回 生活学の将来展望と試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：自分の身近な生活環境について普段から関心をもつこと。 授業後：授業で学んだ内容を復習する手書きのノートを作成すること。その際に理解不足の点を補いながらまとめるように心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(60%)、ワークシート記入状況(40%)などにより総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	家政学の時間編集委員会. 『楽しもう家政学-あなたの生活に寄り添う身近な学問-』. 2017. 開隆堂. (ISBN: 978-4304021497)						
参考書	日本家政学会家政教育部会編. 家族生活の支援-理論と実践-. 2014. 建帛社. (ISBN: 978-4-7679-6518-5). 各自高等学校で使用していた家庭科の教科書(及び資料集).						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活経済学						
担当教員	竹田 美知・前田 直哉					科目ナンバ-	U12080
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活と経済のかかわりを理解させ生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性を理解する。						
授業の概要	最近メディア報道で経済的諸問題、具体的には国債発行に見る累積赤字、不良債権問題と金融危機、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題、円相場の変動と輸出入の関係、産業の空洞化などが多く取り上げられる。本講義では、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題や産業の空洞化など、学生の卒業後の生活とかかわる問題と関連させながら、これら諸問題に対する政府および行政の対応を神戸の産業を例にとって具体的に論じ、さまざまな経済的問題が私たちの生活にどのように影響してくるかを考えていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済循環における家計の位置づけを家計の可処分所得の分析などの具体的な事例を通して理解できる。 ・生涯にわたる短期・長期の生活設計を行う上での個人の資産管理の基本的な考え方を理解できる。 ・キャッシュレス社会とその課題について理解できる。 						
授業計画	第1回 日本の家計の金融行動と日本経済の資金循環 (担当: 前田) 第2回 今日の家計の特徴 (担当: 竹田) 第3回 貨幣の時間価値①: 貨幣の時間価値と機会費用 (担当: 前田) 第4回 貨幣の時間価値②: 貨幣の現在価値と将来価値 (担当: 前田) 第5回 金利①: 金利の分類、名目金利と実質金利 (担当: 前田) 第6回 金利②: 単利と複利、債券価格、株式価格と金利 (担当: 前田) 第7回 長期の生活設計におけるリスク管理 (担当: 竹田) 第8回 生涯賃金と支出 (担当: 竹田) 第9回 社会保障制度・中間試験 (担当: 竹田) 第10回 個人・家計の負債利用①: 負債利用の意思決定プロセス、負債のコスト (担当: 前田) 第11回 個人・家計の負債利用②: ローンの種類と目的 (担当: 前田) 第12回 個人・家計の負債利用③: クレジットローンの利用と返済 (担当: 前田) 第13回 ライフプラン実習 (担当: 竹田) 第14回 金融商品①: 金融商品の種類、金融リスク、金利と利回り (担当: 前田) 第15回 金融商品②: 債券の種類、債券価格と利回り、信用リスクと利回り格差・定期試験 (担当: 前田)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習: 授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集 (学習時間: 90分) ・授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと (学習時間: 90分) 						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(40%): 第10~15回で取り上げた内容への理解度を評価する。 ・中間試験(40%): 第1~9回で取り上げた内容への理解度を評価する。 ・平常点(20%): リアクションペーパー(講義内容を踏まえた練習問題)を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。 						
教科書	貝塚啓明・吉野直行・伊藤宏一[編著]『実学としてのパーソナルファイナンス』中央経済社を薦める。						
参考書	特になし。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U01040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察						
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。 2. 図表からわかることを文章で表現できる。 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 感覚の心理学的意味 3. 行動と感情 4. 行動と環境 5. 人格 6. 知覚—視覚— 7. 対人魅力 8. 発達 9. 記憶 10. 認知 11. 感情 12. 知覚—触覚— 13. 対人関係 14. 心理学の生活への応用 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次回の授業の内容に関係する疑問を言語化する。（学習時間：90分） 授業後学習：授業でとりあげた内容を確認し、実際の生活の中でどのように生かすことができるか各授業の内容を自分にあてはめて考える。（学習時間：90分）						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート(40%)：授業のなかで随時おこなう。到達目標3に関する到達度の確認。評価後に返却する。 試験(60%)：授業で解説した内容について説明できるか、図表から読み取ったことを表現し、自分の考えを展開できるかについて評価する。到達目標1と2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「視覚世界の謎に迫る—脳と視覚の実験心理学」 ブルーバックス ISBN：978-4062575010 「美人は得をするか 「顔」学入門」 集英社新書 ISBN: 978-4087205589 「皮膚感覚と人間のこころ」 新潮社 ISBN：978-4-10-603722-1 「自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義」 大和書房 ISBN: 978-4479795315						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	Word, Excel, PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70% プレゼンテーションの課題と実演30%						
履修上の注意	3分の1以上の欠席は履修を認めない。						
教科書	教科書は使用しない。レジユメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	Word, Excel, PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70% プレゼンテーションの課題と実演30%						
履修上の注意	3分の1以上の欠席は履修を認めない。						
教科書	教科書は使用しない。レジユメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	吉井 美奈子					科目ナンバ-	U22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	家庭生活に関わる情報の意義や役割、モラルを理解させ情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアを主体的に活用する能力と態度を育てる。						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	家庭生活に関わる、情報通信技術の基礎知識と各種ソフトウェアの知識と技能を習得する。Word、Excel、PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。						
授業計画	第1回 家庭生活における情報化の進展（講義）ブロードバンド通信、モバイル通信、IPアドレス、タブレット端末、スマートフォン、電子書籍リーダー、マルチメディアの現状と将来 第2回 情報モラルとセキュリティ（講義） 第3回 情報通信ネットワーク（課題の設定と情報収集）（講義）電子メール、SNS、Web情報検索、Webにおける情報発信、データベース、教具としてのソフトウェア 第4回 文章作成演習－生活産業に関わるビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－ヒューマンビジネスに関わる生活産業の企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーション課題の作成（演習） 第13回 プレゼンテーション課題の実演① 第14回 プレゼンテーション課題の実演② 第15回 家庭生活における情報及び情報活用の意義と倫理的な見方や考え方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自宅やPC教室で復習をしよう。 情報ツールを使った表現などに興味をもとう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70%、プレゼンテーションの課題と実演30%						
履修上の注意	毎回、自分専用のUSBを持参すること・ 集中して課題に取り組もう。 遅刻は15分以内。それ以降は欠席になる。						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活設計論						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U72010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、その実践手法であるライフプランニングを行う力を身に付ける。						
授業の概要	多様なライフスタイルの中で自立した個人の確立の必要性を認識し、ライフデザインを行う力を身に付ける。生活課題を探究し、他者との共生や社会の一員として自らの在り方を把握することを目指す。現代社会の抱える問題として夫婦関係に伴うジェンダーの問題、少子化社会における子育ての問題、企業と消費者の情報格差から生じる問題、若者の貧困とキャリアデザインといった生活問題を解決する力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、ライフデザインを数値化した手法であるライフプランニングを身に付けることができる。 ・マネープランニングを近未来および未来の生活のシミュレーションによって理解できるようになる。 ・資金計画、社会保険制度、年金制度を具体的な数値計算によって理解できるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 ライフプランニングの手法：ライフプランニングの手順 第3回 教育資金計画：こども保険、教育ローン、奨学金制度 第4回 住宅取得資金計画：住宅ローンの金利、住宅ローンの返済方法、住宅ローンの種類 第5回 社会保険①：社会保険の種類、公的医療保険の基本、健康保険、国民健康保険 第6回 社会保険②：後期高齢者医療制度、公的介護保険、労働災害補償保険、雇用保険 第7回 リタイアメントプランニングの基本：老後生活資金～中間試験 第8回 タックスプランニング：ゲストスピーカーによる講義 第9回 マネープランニング①：近未来の生活のシミュレーション 第10回 マネープランニング②：未来の生活のシミュレーション 第11回 公的年金の全体像：公的年金と私的年金 第12回 公的年金の給付①：老齢基礎年金、老齢厚生年金 第13回 公的年金の給付②：障害給付、遺族給付、併給調整 第14回 企業年金：確定給付型、確定拠出型、自営業者等のための年金制度 第15回 中小法人の資金計画：資金調達の方法～定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集(学習時間：90分) ・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと(学習時間：90分) 						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(30%)：第8～15回で取り上げた内容への理解度を評価する。 ・中間試験(30%)：第1～7回で取り上げた内容への理解度を評価する。 ・平常点(40%)：毎回提出のリアクションペーパー(講義内容を踏まえた練習問題)を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U21070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。 ・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。 ・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。 ・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。 						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域～中間試験 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①～定期試験：グループごとのプレゼンテーション 第15回 授業のまとめ②～定期試験：グループごとのプレゼンテーション						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集(学習時間：90分) ・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと(学習時間：90分) 						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	定期試験(30%)：授業の第14・15回目に行うので、両日に必ず出席すること。グループごとのプレゼンテーションが授業で取り上げた記述統計(第1～6回)と推定統計(第7～13回)を的確に理解している内容であるかどうか、自己のグループ発表の振り返り、他のグループ発表へのコメントを総合的に評価する。 中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容への理解度を評価する。 平常点(40%)：毎回提出のリアクションペーパー(講義内容を踏まえた練習問題)を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。 						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U21070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。 ・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。 ・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。 ・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。 						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域～中間試験 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①～定期試験：グループごとのプレゼンテーション 第15回 授業のまとめ②～定期試験：グループごとのプレゼンテーション						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集(学習時間：90分) ・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと(学習時間：90分) 						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	定期試験(30%)：授業の第14・15回目に行うので、両日に必ず出席すること。グループごとのプレゼンテーションが授業で取り上げた記述統計(第1～6回)と推定統計(第7～13回)を的確に理解している内容であるかどうか、自己のグループ発表の振り返り、他のグループ発表へのコメントを総合的に評価する。 中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容への理解度を評価する。 平常点(40%)：毎回提出のリアクションペーパー(講義内容を踏まえた練習問題)を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。 						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活と法						
担当教員	板持 研吾					科目ナンバ-	U12070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広く生活に関わる法律問題を題材に、法についての基本的な考え方を学ぶ。						
授業の概要	「生活」といっても様々な場面があるが、①衣食住といった消費生活、②仕事や労働といった経済生活、③両者に関わる家族生活、の3つに切り分けて法の関わり方を考えていく。法律は難しいイメージがあるが、アレルギー反応を起こさないように学んでほしい。						
到達目標	①消費生活、②経済生活、③家族生活、のそれぞれの場面で法がどのように役立つかを知り、実践できるようになる。(ア)法の基本的な考え方、(イ)具体的な場面での法の役立て方、の両方を身に着ける。						
授業計画	<p>概要のとおり3つの場面に分けて順に学習していきます。大体次の通り予定します。</p> <p>第01回 インTRODakション 生活の様々な場面 法の使い方 第02回 消費生活と法① 食と法 第03回 消費生活と法② 住と法 第04回 消費生活と法③ 衣と法 第05回 消費生活と法④ ショッピングと法 第06回 消費生活と法⑤ 銀行と法、小テスト(消費生活と法) 第07回 経済生活と法① アルバイトと法 第08回 経済生活と法② 就職活動と法 第09回 経済生活と法③ 仕事と法 第10回 経済生活と法④ 解雇(クビ)と法 第11回 小テスト(経済生活と法) 家族生活と法① 結婚と法(1) 婚姻 第12回 家族生活と法② 結婚と法(2) 離婚 第13回 家族生活と法③ 子育てと法、介護と法 第14回 家族生活と法④ 相続と法 第15回 小テスト(家族生活と法)、全体のまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>初回の準備学習として、自分は普段の生活で何をしているか考えておく。</p> <p>第2回目以降については授業内で準備学習の内容を案内する。授業後には復習をし、不明なところがあれば授業後または次回に質問すること。</p> <p>第4回目以降は松蔭manabaも活用する。授業が始まってから詳しく案内する。</p>						
授業方法	主に講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	<p>1. 小テスト(60%…20%×3回)</p> <p>2. 期末試験(40%)</p>						
履修上の注意	<p>1. 小テスト・期末試験は追試等の救済措置を行わない。必ず出席して受験すること。</p> <p>2. 授業資料は授業内で配布するほか、松蔭manabaでも入手できるようにする。やむを得ず欠席する場合にはmanabaで入手すること。</p>						
教科書	使用しない。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎I						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバ-	U01020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学問的専門領域のための化学と生物学						
授業の概要	生活の科学基礎 I は、生活科学を学ぶための入門として生物学、化学の基礎的知識を身につけることを目的とする。複雑、多様化した現代社会におけるモノと人との関わりを中心とした生活の現状を理解し、問題を見出し、解決するための基礎的な知識、技術、態度を養う。人が健康で質の高い生活をするにはどのような自然科学の知識が必要か生活を取り巻く自然環境にも目をむけ、生活の衛生、モノの機能などの科学的な研究ができる力を養う。						
到達目標	レベルⅠ：化学と生物学が生活に役立てられることを理解する。 レベルⅡ：衣食住の事象やヒトの振る舞いを科学的な眼で見ることができる。 レベルⅢ：科学的視点によって、モノの効率的な利用方法を提言したり、モノ自体を改良したり、社会生活をより良く送ることができる。						
授業計画	第1回 化学や生物学をなぜ学ぶのか 第2回 物質とはなにかⅠ、心の性Ⅰ 第3回 物質とはなにかⅡ、心の性Ⅱ 第4回 元素とはなにかⅠ、心の発達Ⅰ 第5回 元素とはなにかⅡ、心の発達Ⅱ 第6回 化学結合とはなにかⅠ、心の発達Ⅲ 第7回 化学結合とはなにかⅡ、男女差の発達Ⅰ 第8回 物質「モル」とはなにかⅠ、男女差の発達Ⅱ 第9回 物質「モル」とはなにかⅡ、男女差の発達Ⅲ 第10回 有機化合物とはなにかⅠ、さまざまな性Ⅰ 第11回 有機化合物とはなにかⅡ、さまざまな性Ⅱ 第12回 高分子化合物とはなにかⅠ、さまざまな性Ⅲ 第13回 高分子化合物とはなにかⅡ、性の発達 第14回 化学・生物学の最新トピックス 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：教科書の指定ページを読み、配布する予習シートを書き込んで次回に持参する。 復習：授業で生じた疑問や興味について各自で調べ、配布する復習シートを書き込んで次回に持参する。 いずれのシートも授業開始時に回収する。						
授業方法	講義 化学と生物学の2冊の教科書に沿って授業を進める。毎回、配布する授業シートを記入し、提出する。						
評価基準と評価方法	平常点 100%（予習シート20%、復習シート20%、授業シート60%）						
履修上の注意	3種類のシートは提出の次週に返却するので、全てファイリングしておくこと。 スマホ等インターネットの使用は授業シートの記述に際しては認めないが、予習シートと復習シートにおいては使用してよい。 これらのシートの積み重ねによって最終評価に大きな差がつくことも予想されるため、毎回の積み重ねが重要である。						
教科書	図解・化学「超」入門 物質の基本がゼロからわかる(サイエンス・アイ新書)、左巻 健男、寺田 光宏、山田 洋一(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:9784797363722 科学でわかる男と女になるしくみ(サイエンス・アイ新書)、麻生 一枝(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:9784797362107						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U01030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会生活の中で消費者はどのように行動し、どのような役割を果たしているのか。より豊かな社会生活を営んでいくために必要となる消費者行動の基礎知識と現実問題について学ぶ。						
授業の概要	生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える。また、衣・食・住生活の消費を考え、生活者として現代の消費社会における消費者と事業者の情報力および交渉力格差によって生ずる消費者問題の諸相を把握し、問題解決の方向性を探る力を身につける。さらに、法学、経済学、社会学などの社会科学の視点から現実の問題を分析できる力を醸成する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者行動を社会科学の枠組みの中で捉え、その基礎知識を理解できるようになる。 ・理論上の消費者の最適な行動を学ぶだけではなく、実際、どのような消費者行動を取れば、より豊かな社会生活を営めるかを考えることができるようになる。 ・消費者問題の実態を学ぶことを通じて、社会科学の枠組みの中でその問題解決策はどのようなものがあるかを考えることができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 家計に関する基礎概念と家計調査：家計の収入と支出、物価変動、家計の統計 第3回 家計に見る暮らしの変化：収入の変化、実収入と可処分所得、支出の変化、ストックの変化 第4回 現代社会と家計の消費行動：消費支出額の変化、消費内容の変化 第5回 妻と夫の経済関係：結婚生活と家計、世帯と家計、妻と夫の家計・資産、妻と夫の経済関係と法 第6回 親と子の経済関係：親と子の経済関係、子の教育、親の扶養 第7回 家計収支と家計簿分析：家計簿、家計簿の項目、ライフイベントで必要となる資金 第8回 キャッシュフロー表分析①：キャッシュフローの定義と作成の意義 第9回 キャッシュフロー表分析②：収入と可処分所得、具体的な可処分所得の計算 第10回 第1～9回のまとめと中間試験 第11回 カード社会と消費者信用①：負債利用までのプロセス、負債のコスト、負債利用の注意点 第12回 カード社会と消費者信用②：クレジットカードの利用と管理、リボルビング払いの返済スケジュール 第13回 消費者問題と法：多重債務、債務整理、消費者基本法、消費者契約法 第14回 奨学金問題と法：貸金収入と不確実性、奨学金返済の遅滞とペナルティ 第15回 第11～14回のまとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集(学習時間：90分) ・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと(学習時間：90分) 						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容への理解度を評価する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容への理解度を評価する。 ・平常点(40%)：毎回提出のリアクションペーパー(講義内容を踏まえた練習問題)を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活福祉論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U11170
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活福祉と社会生活における様々な事象との関わりから、生活福祉の意義や役割について学ぶ。						
授業の概要	価値観が多様化する現代社会において、一人ひとりが尊厳をもって自分らしいライフスタイルを維持し人間らしい質の高い生活を実現していくために、生活上の困難や問題が生じたときには、解決していくための援助や支援が社会のシステムとして必要になる。社会保障の仕組みを学ぶとともに、さまざまなライフスタイルを持った個人と家族にとって、ライフコースのそれぞれの時点での生活者の視点からの支援を考え、今日の格差社会や貧困層拡大といった問題を射程に入れつつ、人々の福祉ニーズをとらえ生活福祉の活動に必要な方法・技術を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の生活福祉における諸問題を理解し、その概要を説明することができる ・それらの諸問題に対して、専門用語を用いながら自らの考えや解決策を述べるすることができる 						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態の確認と生活福祉を「学ぶ」意義） 第2回 生活福祉の定義をもとめて 第3回 健康な生活習慣と生活福祉 第4回 生活福祉を支えるコミュニケーション 第5回 コミュニケーションの限界 第6回 公共と生活福祉 第7回 集団心理と生活福祉 第8回 ストレスと生活福祉 ※ゲストスピーカーによる講義 第9回 社会保障と生活福祉 第10回 援助行動と生活福祉 第11回 人間の尊厳を考える 第12回 メディアと生活福祉 第13回 いのちと生活福祉 第14回 自らの生活福祉を展望する 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各テーマについて自分の考えを整理しておくことが望ましい。 授業後：専門用語については、レポートで理解度を問うので必ず復習を行うこと。各テーマについて発展的な学習を行うことが望ましい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	終講課題(40%)、授業ワークシートの記入状況や、受講態度などの平常点(60%)などから総合的に評価を行う。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など） 						
教科書	必要に応じて資料を配布する。						
参考書	講義の中で紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製パン実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U22450
学期	後期隔週A	曜日・時限	月曜2~5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	製パンについて基礎的な知識と技能を系統的に身につける。						
授業の概要	本実習では、パンを製品のタイプで分類し、各々の中から代表的なものを選んで実習し、各種穀類粉末の特性、原材料各々の果たす役割、製造工程などの基礎的な知識と技能を系統的に身につける。具体的に、手ごねパン、型焼き食事パン（食パン、イギリスパン（山食パン）、レーズンブレッド）、伝統的食事パン（フランスパン、ドイツパン）、ソフト系のパン（バターロール、テーブルロール、編みパン）、砂糖の多い生地（菓子パン）などを実習する。						
到達目標	(1) 衛生面に注意しながら、基本的な作業ができる。 (2) 各種穀類粉末の特性、原材料各々の果たす役割、製造工程などの基礎的な知識と技能を系統的に身につける。 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、タイプに応じた対応ができる。 (4) 習得した技術を用いて、独自の菓子を提案することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実習前の注意事項 第2回 手ごねパン バターロール 第3回 手ごねパン 編みパン 第4回 手ごねパン ハードロール 第5回 手ごねパン 揚げパン 第6回 シンプルなパン 食パン「特別招へい講師」 第7回 シンプルなパン フランスパン「特別招へい講師」 第8回 イタリアのパン 第9回 プリオッシュ 第10回 ドイツのパン 第11回 イングリッシュマフィン 第12回 リッチなパン 折り込み生地のパン「特別招へい講師」 第13回 リッチなパン 菓子パン「特別招へい講師」 第14回 オリジナル作成 第15回 まとめ ※パンの種類については、その回の代表的なものを挙げている。なお、変更することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに復習をする。（学習時間：120分）						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題作成】課題について適切な計画をたてて、計画に基づき作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確に行っているかを評価する。						
履修上の注意	「製パン理論」の単位取得者が履修できる。 隔週2回連続の実習となるため日程に注意をすること。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習レポートの提出によって実習の受講とする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。						
教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール社 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06106-5						

参考書	
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製パン理論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U72490
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパを中心とした世界のパンの製造法を理論的に学ぶ。						
授業の概要	製パンに必要な機械と器具類、基本材料（穀類粉末・イースト・塩・水）と副材料（砂糖や卵や油脂、その他）の知識と役割、計量・混捏・発酵・成形・焼成までの各工程の知識と意義、直捏法と中種法などの代表的製パン法の理論、パンの種類などを体系的に習得する。そのため、実習とリンクさせながら順を追って学習できるようにする。「経験、技術、コツ」といわれてきた製パン法を理論的に学び、製パン技術を効果的に高められる内容とする。						
到達目標	(1) 製パンに必要な機械と器具類、基本材料と副材料の知識と各工程の知識と意義を理解する。 (2) 直捏法と中種法などの代表的製パン法の理論、パンの種類などを体系的に理解する。 (3) 製パン実習に向けて、具体的な製パン法を理論的に習得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、パンの歴史と種類 第2回 製パンの基礎理論 材料と役割 第3回 製パンの基礎理論 製パンの工程 第4回 製パンの基礎理論 発酵 第5回 製パンの基礎理論 焼成 第6回 製パンの基本技術 第7回 ハード系のパン 第8回 ソフト系のパン 第9回 型で焼いたパン 第10回 折り込み生地のパ 第11回 揚げパン 第12回 特殊なパン 第13回 サワー種のパ 第14回 自家製酵母種のパ 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。実習で製造するパンの作り方について、具体的に説明をする。授業の終わりには各回の課題についてまとめる時間をとり、ミニレポートを作成して提出とする。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験50% ：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題20% ：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。(2)に関する到達度の確認。 受講態度30% ：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。(1)および(3)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール辻 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06106-5 ※この教科書を「製パン実習」でも使用する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	組織論						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	U72550
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	世の中には非常に多種多様な組織が存在する。私企業の組織に対して「公的組織 (public organization)」という研究領域もある。ただ、組織のモデルとして主張される組織のタイプはいくつかに集約されている。「組織における人間観」では代表的な組織理論として「伝統的組織論」「人間関係論」「近代組織論」の3つを中心に引き上げ、組織論といわれる分野においてはどのような理論が構築されているのか理解する。						
授業の概要	経営学の組織論の学説史を踏まえながら、現代の経営組織の基礎概念・理論を実務面と結びつけながら理解する。						
到達目標	経営組織論の基礎概念・理論を実際の企業組織と関係付けながら知識として身に付ける。同時に、自分にとっての身近な組織における諸現象について、学習した知識を応用して理解・解釈することができるようになること。						
授業計画	第1回 経営学における経営組織論の位置づけ 第2回 伝統的管理論 (経済人モデル) 第3回 科学的管理法 第4回 人間関係論 (社会人モデル) 第5回 近代組織論 (自己実現モデル) 第6回 世の中にはどのような組織があるのか (株式会社、NPO、公法人、財団など) 第7回 会社の経営とは (企業経営入門) 第8回 会社はどのように世の中の役に立っているのか 第9回 人の働く組織はどのようにつくられるのか (組織設計) 第10回 会社はどのような方針で動いているのか (経営理念と戦略) 第11回 会社はだれが動かしているのか (コーポレート・ガバナンス) 第12回 会社はどんな仕組みで動いているのか (組織形態) 第13回 社員は仕事をどのように分担しているのか (組織構造と職務設計) 第14回 会社は他の会社とどのように協力しているのか (組織間関係) 第15回 経営組織論の総括						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	企業の組織に関わる新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックの発表も予定している。						
授業方法	講義を基本とするが受講生との対話形式も取り入れる。グループワークをすることもある。授業で見解を求めることがあるが、積極的な発言を期待したい。						
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート (40%)、試験 (60%) により総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確保できない場合は受講資格を失う・20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー (私語など) も評価に加味する						
教科書	授業ごとに資料を配布する。						
参考書	「経験から学ぶ 経営学入門」 (有斐閣ブックス)						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調査集計演習						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U22080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ^2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題 (10%)、レポート (10%)、小テスト (20%)、期末テスト (60%)						
履修上の注意	復習は必ずすること。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	なし (授業中に資料を配布する)						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調査集計演習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U22080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ^2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題 (10%)、レポート (10%)、小テスト (20%)、期末テスト (60%)						
履修上の注意	復習は必ずすること 20分以上の遅刻は欠席扱いとする						
教科書	なし (授業中に資料を配布する)						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理学						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U12130
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調理をするために必要な知識を学ぶ。						
授業の概要	エネルギー量、たんぱく質量などで表される必要栄養量を、食事という実際に食べられる形に変える仕事を調理という。調理は最も好ましい状態で食べ物が食されるようにすることで、必要な栄養を充足させるだけでなく、おいしく心理的にも満足させるものでなくてはならない。調理学ではこのような調理をするために必要な知識、すなわち食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを学ぶ。						
到達目標	(1) 食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを理解する。 (2) 状況に合わせた食事設計ができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理の意義、食べ物の嗜好性 第2回 おいしさの演出 第3回 食事設計 第4回 調理操作—非加熱操作と器具 第5回 調理操作—加熱操作と器具、熱源の種類と加熱機器・器具 第6回 包丁の知識勉強会・研ぎ講習会「ゲスト・スピーカー招へい予定」 第7回 炭水化物を多く含む食品の調理性 第8回 たんぱく質を多く含む食品の調理性 第9回 ビタミン・無機質を多く含む食品の調理性 第10回 成分抽出素材の利用と調理性 第11回 調理と摂食機能 第12回 安全性への配慮 第13回 調理から加工への展開 第14回 消費と流通への展開 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。授業の終わりには各回の課題についてまとめる時間をとり、ミニレポートを作成して提出する。また、2日間の食事を記録する課題によって、自らの食生活を客観的にふり返り、食事設計を行う。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題20%：2日間の食事記録の取り組み方、客観的な振り返りの積極性を評価する。(2)に関する到達度の確認。 受講態度30%：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。(1)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	『調理学』、(公社)日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、ISBN 978-4-7679-0524-2						
参考書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理実習						
担当教員	馬場 公恵					科目ナンバ-	U12140
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	調理実習を通して基本的な調理操作を習得し、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技術を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な調理を行うことによって、調理の特異性、調理の楽しさ・面白さ・大切さ、そして調理の可能性について理解し、調理に対する興味を広げる。 調理技術を習得することによって、食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 第2回 炊飯、だしのとり方、青菜の茹で方、出汁巻き卵 第3回 炊き込みご飯、茶碗蒸し、和え物、白玉粉① 第4回 魚のおろし方・塩焼き、乾物のもどし方・炊き合わせ、和え物、ご飯、味噌汁、寒天① 第5回 コンソメスープ、ムニエル、サラダ・フレンチドレッシング、カスタードプディング 第6回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、ソテー、ゼリー①アガー 第7回 小麦粉②ブラウnlウ・肉料理、付け合せ、サラダ・マヨネーズ、クッキー、コーヒー 第8回 小麦粉③ピザ、魚介類のフライ、ミネストローネ、フルーツサラダ、ゼリー②ゼラチン 第9回 小麦粉④わんたん、酢豚、豆腐入りコンソメスープ、中国風カステラ、花茶 第10回 中華ちまき、うずら卵のスープ、春巻き、寒天②杏仁豆腐、烏龍茶 第11回 青椒牛肉糸、トマトと卵のスープ、酢の物、白飯、白玉粉②ゴマ団子、プーアル茶 第12回 おばんざい<煮魚、おから、野菜の煮浸し、和え物>、ご飯、汁物 第13回 行事食①<お寿司>、飾り切り、麺の茹で方②吸い物、茶巾しぼり、お茶二種 第14回 小麦粉⑤ケーキ・サレ、ポタージュスープ、シュークリーム、紅茶 第15回 行事食②<おこわ、おはぎ・ぼたもち>、お茶二種、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。(学習時間：60分) 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに調理をする。(学習時間：120分)						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果(料理の仕上がり)より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。 【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。						
履修上の注意	「調理学」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習レポートの提出によって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。						
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4						

参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN978-4-8103-1395-6
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U12140
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	調理実習を通して基本的な調理操作を習得し、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な調理を行うことによって、調理の特異性、調理の楽しさ・面白さ・大切さ、そして調理の可能性について理解し、調理に対する興味を広げる。 調理技術を習得することによって、食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 第2回 炊飯、だしのとり方、青菜の茹で方、出汁巻き卵 第3回 炊き込みご飯、茶碗蒸し、和え物、白玉粉① 第4回 魚のおろし方・塩焼き、乾物のもどし方・炊き合わせ、和え物、ご飯、味噌汁、寒天① 第5回 コンソメスープ、ムニエル、サラダ・フレンチドレッシング、カスタードプディング 第6回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、ソテー、ゼリー①アガー 第7回 小麦粉②ブラウルウ・肉料理、付け合せ、サラダ・マヨネーズ、クッキー、コーヒー 第8回 小麦粉③ピザ、魚介類のフライ、ミネストローネ、フルーツサラダ、ゼリー②ゼラチン 第9回 小麦粉④わんたん、酢豚、豆腐入りコーンスープ、中国風カステラ、花茶 第10回 中華ちまき、うずら卵のスープ、春巻き、寒天②杏仁豆腐、烏龍茶 第11回 青椒牛肉糸、トマトと卵のスープ、酢の物、白飯、白玉粉②ゴマ団子、プーアル茶 第12回 おばんざい<煮魚、おから、野菜の煮浸し、和え物>、ご飯、汁物 第13回 行事食①<お寿司>、飾り切り、麺の茹で方②吸い物、茶巾しぼり、お茶二種 第14回 小麦粉⑤ケーキ・サレ、ポタージュスープ、シュークリーム、紅茶 第15回 行事食②<おこわ、おはぎ・ぼたもち>、お茶二種、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。(学習時間：60分) 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに調理をする。(学習時間：120分)						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果(料理の仕上がり)より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。						
履修上の注意	「調理学」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習レポートの提出によって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。						
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4						
参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域ブランド論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U72520
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の豊かな生活文化を表す価値、すなわち多様な地域ブランドの理解を深め、地域の課題を考える。						
授業の概要	地域ブランドとは、経済のグローバル化が進展し、世界が一つの市場に統合されていく中で、地域が自らの個性や強みなどローカル特性に徹底的にこだわり、地域にしかできないこと、つまり地域固有の価値を明確にして、世界に対して発信していく取り組みを考える。具体的には、農林水産業・食品産業・伝統工芸産業・観光サービス業・商業などの分野で幅広い展開が行われていることを講義で理解する。以上のようなケーススタディを通して、本講義ではブランドの理論、手法、実践例、活用方法を学ぶ。						
到達目標	①地域ブランドの概念について政府機関の考え方を踏まえながら企業ブランドとの関係性について理解を深めることができる。 ②地域ブランドの構築に際して形成すべき要素・構成について理解し、アイデアを深めていく。 ③ブランドの対象となるものに付与すべき価値や機能について考え、地域の課題を考えることができる。						
授業計画	第1回 地域ブランドの概念と構成 第2回 都市・地域のマーケティング 第3回 ブランド戦略における地域・都市の位置づけ 第4回 ブランド創造都市の構築 第5回 インターナル・ブランディング 第6回 地域ブランドの体系 第7回 地域ブランドの構成要素 第8回 地域ブランド・ブランニング 第9回 地域ブランド・マネジメント 第10回 観光・物産と地域ブランド 第11回 地域の観光まちづくり事業 第12回 観光地の集客イベント事業(ゲスト・スピーカーを予定) 第13回 スポーツ・ツーリズムと集客都市 第14回 観光ビジネスの本質 第15回 インバウンドの観光事業と新しい旅行スタイル						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	①地域の情報誌や駅構内にあるフリーペーパーなどは必読しておくこと。 ②地元(自分が住んでいる市町村)の観光実態を把握しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20%:各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問・アイデア)などにより評価する。到達目標に関する到達度の確認。 レポート+小テスト20%:到達目標に合わせてレポートと小テストを実施する。 期末試験60%:授業で扱った地域ブランドの考え方に対する理解度、手法、課題など、到達目標に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①授業中配布するプリントは、各回の出席者のみ配布する(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布)。 ②授業回数の3分の1以上欠席した人は期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	なし ※授業中、プリントを配布する。						
参考書	『地域マーケティングの核心』佐々木茂・石川和男・石原慎士編著、同友館 ISBN978-4-496-05089-3 『よくわかる現代マーケティング』陶山計介・鈴木雄也・後藤ごず恵編著、ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07975-9 『1からの観光』高橋一夫・大津正和・吉田順一編著、中央経済社 ISBN978-4-502-67410-5						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域連携論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12160
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形で進む地域連携の具体例を知り、市民的成熟に基づいたコミュニティづくりを考える。						
授業の概要	本講義は、現代社会における地域が抱える諸問題について、いかにして関係諸機関が連携を図り、その問題解決を行うかについて学ぶ。 前半は、社会制度や行政の取り組みを考え、後半はコミュニティ・ビジネスや、ソーシャル・ビジネスの具体的な事例を紹介し、NPOや市民団体等による先駆的な実践を大阪～阪神間～神戸の地元から紹介する。 また、本学科が地域と連携して行っている活動についても紹介し、大学の地域貢献についても触れる。官民による多様な実践例から、身近な生活をよりよくする地域連携のあり方について考察する。						
到達目標	(1) コミュニティにおいての市民的成熟を身につけることができる。 (2) 地域のコミュニティづくりに参画することができる。 (3) 地域のコミュニティづくりの具体案を出すことができる。						
授業計画	前半は「地域連携」の社会的意義、考え方を概論、後半は講師がこれまで関わってきたり取材してきたさまざまなNPOやTMOなどの組織、地域団体、組織、ネットワークの実例をリアルに紹介し、それを理解し考察する。 第1回 この授業で学ぶこと。オリエンテーションに代えて 第2回 地域＝地方性と都市、まち。 第3回 地域と生きる。地域ではたらく。 第4回 血縁・地縁と公共。 第5回 ハイパーインダストリアル時代と地域性。地図と暦。 第6回 ソーシャル・キャピタルの見方。 第7回 信頼・規範・ネットワーク。岸和田だんじり祭礼と地域。 第8回 「naddist (HPナダタマ管理人)」(灘区)という「地域人」としての生き方。 第9回 「ナダタマ」の情報発信、地域イベント(行政、水道筋商店街)の実例から。 第10回 NPO「食と農の研究所」(灘区)の取り組み。都市と農家、農業 第11回 TMO尼崎の取り組み。「メイドイン尼崎コンペ」「メイドイン尼崎ショップ」 第12回 「月刊島民」と「ナカノシマ大学」(大阪市北区中之島)。 第13回 「ナカノシマ大学」の地域出版。 第14回 「天満天神繁昌亭」の開席と展開。上方落語協会と大阪天満宮、天神橋筋商店街の取り組み。 第15回 神戸松蔭女子学院大の地域連携。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	参考書を読むこと(1時間)。 授業計画にあがった実例の地元をその都度歩くこと、地域イベントなどに参加すること(2時間)。						
授業方法	毎回、レジュメや資料を配付します。実際のフィールドワークにつながるように、大阪～阪神間～神戸の実例を中心に講義する。毎回の講義の後、コメントペーパーを書いて提出してください。 学期中に、自分が知り得た地域連携の実例、タイムリーな地域イベントに参加して、それをレポートすること。						
評価基準と評価方法	レポート(50%)。各回提出のコメントペーパー(30%)、授業でのコール&レスポンス(20%)						
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。						
教科書	その都度、プリントを配布します。						
参考書	『ソーシャル・キャピタル入門～孤立から絆へ』稲葉陽二著、中公新書、ISBN-10: 412102138X 『奇跡の寄席 天満天神繁昌亭』堤成光著、140B、ISBN-10: 4903993043 『大阪の神さん仏さん』釈徹宗・高島幸次著、140B、ISBN-10: 4903993140 『古地図で歩く大阪ザ・ベスト10』本渡章著、140B、ISBN-10: 4903993299 『月刊島民』(フリーマガジン) 『メイドイン尼崎本』ティーエムオー尼崎 『南部再生～尼崎南部地域の情報誌』(フリーマガジン)						

参考書	HP 『ナダタマ』 http://www.naddist.jp
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる。 個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる。 論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 神戸の食文化と街の成長と発展① 第3回 神戸の食文化と街の成長と発展② 第4回 神戸の食文化の発展と課題について考える— 疑問を抱きながら問題意識を高めていく — 第5回 神戸の産業①：食と観光と貿易 第6回 神戸の産業②：経済関連 第7回 神戸市の抱える課題 (食と産業、観光の面から) (ゲストスピーカー) (UB合同) 第8回 フィールドワーク (企業訪問) (UB合同) 第9回 フィールドワーク (企業訪問) (UB合同) 第10回 社会科学の研究手法①：テーマ設定 第11回 社会科学の研究手法②：構想固め 第12回 社会科学の研究手法③：課題発見 (企画・立案) 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表 (UB合同) 第15回 前期のまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> 各自で予習・復習を必ず行うこと。 課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題 (40%)、プロジェクトの成果発表 (60%) による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる。 個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる。 論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 神戸の食文化と街の成長と発展① 第3回 神戸の食文化と街の成長と発展② 第4回 神戸の食文化の発展と課題について考える— 疑問を抱きながら問題意識を高めていく — 第5回 神戸の産業①: 食と観光と貿易 第6回 神戸の産業②: 経済関連 第7回 神戸市の抱える課題 (食と産業、観光の面から) (ゲストスピーカー) (UB合同) 第8回 フィールドワーク (企業訪問) (UB合同) 第9回 フィールドワーク (企業訪問) (UB合同) 第10回 社会科学の研究手法①: テーマ設定 第11回 社会科学の研究手法②: 構想固め 第12回 社会科学の研究手法③: 課題発見 (企画・立案) 第13回 プレゼンテーション①: チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②: チーム発表 (UB合同) 第15回 前期のまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> 各自で予習・復習を必ず行うこと。 課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題 (40%)、プロジェクトの成果発表 (60%) による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる。 個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる。 論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介プレゼンテーション① 第3回 自己紹介プレゼンテーション② 第4回 都市＝まちを記述・表現することの基礎①：現在進行形で変貌するメディアとコンテンツ～メディアに記事やコラムを書く (UL合同) 第5回 都市＝まちを記述・表現することの基礎②：企画立案・取材・執筆～神戸の街を編集してみよう (UL合同) 第6回 第4・5回を踏まえた演習① 第7回 第4・5回を踏まえた演習② 第8回 グループ発表の準備 第9回 グループ発表 第10回 プロジェクトの主旨説明① (UL合同) 第11回 プロジェクトの主旨説明② (UL合同) 第12回 プロジェクトの主旨説明③ (UL合同) 第13回 社会科学の研究手法①：背景の説明、問題提起、方向付け 第14回 社会科学の研究手法②：先行研究の紹介 第15回 夏休み期間中の取り組みについて考える						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> 各自で予習・復習を必ず行うこと。 課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題 (40%)、プロジェクトの成果発表 (60%) による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる。 個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる。 論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介プレゼンテーション① 第3回 自己紹介プレゼンテーション② 第4回 都市＝まちを記述・表現することの基礎①：現在進行形で変貌するメディアとコンテンツ～メディアに記事やコラムを書く (UL合同) 第5回 都市＝まちを記述・表現することの基礎②：企画立案・取材・執筆～神戸の街を編集してみよう (UL合同) 第6回 第4・5回を踏まえた演習① 第7回 第4・5回を踏まえた演習② 第8回 グループ発表の準備 第9回 グループ発表 第10回 プロジェクトの主旨説明① (UL合同) 第11回 プロジェクトの主旨説明② (UL合同) 第12回 プロジェクトの主旨説明③ (UL合同) 第13回 社会科学の研究手法①：背景の説明、問題提起、方向付け 第14回 社会科学の研究手法②：先行研究の紹介 第15回 夏休み期間中の取り組みについて考える						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> 各自で予習・復習を必ず行うこと。 課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題 (40%)、プロジェクトの成果発表 (60%) による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる。 個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる。 論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介プレゼンテーション① 第3回 自己紹介プレゼンテーション② 第4回 都市＝まちを記述・表現することの基礎①：現在進行形で変貌するメディアとコンテンツ～メディアに記事やコラムを書く (UL合同) 第5回 都市＝まちを記述・表現することの基礎②：企画立案・取材・執筆～神戸の街を編集してみよう (UL合同) 第6回 第4・5回を踏まえた演習① 第7回 第4・5回を踏まえた演習② 第8回 グループ発表の準備 第9回 グループ発表 第10回 プロジェクトの主旨説明① (UL合同) 第11回 プロジェクトの主旨説明② (UL合同) 第12回 プロジェクトの主旨説明③ (UL合同) 第13回 社会科学の研究手法①：背景の説明、問題提起、方向付け 第14回 社会科学の研究手法②：先行研究の紹介 第15回 夏休み期間中の取り組みについて考える						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> 各自で予習・復習を必ず行うこと。 課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題 (40%)、プロジェクトの成果発表 (60%) による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトをデザインする力を身につけることができる。 ・問題解決能力を高めることができる。 ・3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 社会科学の研究手法①：先行研究の把握 第3回 社会科学の研究手法②：事実確認と論理的解釈 第4回 研究テーマの設定と準備① 第5回 研究テーマの設定と準備② 第6回 中間プレゼンテーション① (UB合同) 第7回 中間プレゼンテーション② (UB合同) 第8回 最終プレゼンテーションに向けての内容の修正 第9回 調査実施 (調査票作成) 第10回 調査実施 (分析と結果) 第11回 試作づくり① 第12回 試作づくり② 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表 (UB合同) 第15回 後期のまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で予習・復習を必ず行うこと。 ・課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 ・課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題 (40%)、プロジェクトの成果発表 (60%) による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトをデザインする力を身につけることができる。 ・問題解決能力を高めることができる。 ・3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 社会科学の研究手法①：先行研究の把握 第3回 社会科学の研究手法②：事実確認と論理的解釈 第4回 研究テーマの設定と準備① 第5回 研究テーマの設定と準備② 第6回 中間プレゼンテーション① (UB合同) 第7回 中間プレゼンテーション② (UB合同) 第8回 最終プレゼンテーションに向けての内容の修正 第9回 調査実施 (調査票作成) 第10回 調査実施 (分析と結果) 第11回 試作づくり① 第12回 試作づくり② 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表 (UB合同) 第15回 後期のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で予習・復習を必ず行うこと。 ・課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 ・課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、プロジェクトの成果発表(60%)による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトをデザインする力を身につけることができる。 ・問題解決能力を高めることができる。 ・3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 夏休み期間中の取り組みの成果報告 第3回 学外研修・見学 第4回 社会科学の研究手法①：論拠提示、意見提示、結論提示、行動提示 第5回 社会科学の研究手法②：全体のまとめ、展望提示 第6回 社会科学の研究手法③：図表に関する表現、資料に関する表現、展開の技術 第7回 プロジェクトの中間発表の準備 第8回 プロジェクトの中間発表① (UL合同) 第9回 プロジェクトの中間発表② (UL合同) 第10回 中間報告の振り返り 第11回 プロジェクトの最終発表に向けての内容見直し 第12回 プロジェクトの最終発表の準備 第13回 プロジェクトの最終発表① (UL合同) 第14回 プロジェクトの最終発表② (UL合同) 第15回 最終発表の振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で予習・復習を必ず行うこと。 ・課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 ・課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、プロジェクトの成果発表(60%)による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトをデザインする力を身につけることができる。 ・問題解決能力を高めることができる。 ・3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 夏休み期間中の取り組みの成果報告 第3回 学外研修・見学 第4回 社会科学の研究手法①：論拠提示、意見提示、結論提示、行動提示 第5回 社会科学の研究手法②：全体のまとめ、展望提示 第6回 社会科学の研究手法③：図表に関する表現、資料に関する表現、展開の技術 第7回 プロジェクトの中間発表の準備 第8回 プロジェクトの中間発表① (UL合同) 第9回 プロジェクトの中間発表② (UL合同) 第10回 中間報告の振り返り 第11回 プロジェクトの最終発表に向けての内容見直し 第12回 プロジェクトの最終発表の準備 第13回 プロジェクトの最終発表① (UL合同) 第14回 プロジェクトの最終発表② (UL合同) 第15回 最終発表の振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で予習・復習を必ず行うこと。 ・課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 ・課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、プロジェクトの成果発表(60%)による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習の目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトをデザインする力を身につけることができる。 ・問題解決能力を高めることができる。 ・3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 夏休み期間中の取り組みの成果報告 第3回 学外研修・見学 第4回 社会科学の研究手法①：論拠提示、意見提示、結論提示、行動提示 第5回 社会科学の研究手法②：全体のまとめ、展望提示 第6回 社会科学の研究手法③：図表に関する表現、資料に関する表現、展開の技術 第7回 プロジェクトの中間発表の準備 第8回 プロジェクトの中間発表① (UL合同) 第9回 プロジェクトの中間発表② (UL合同) 第10回 中間報告の振り返り 第11回 プロジェクトの最終発表に向けての内容見直し 第12回 プロジェクトの最終発表の準備 第13回 プロジェクトの最終発表① (UL合同) 第14回 プロジェクトの最終発表② (UL合同) 第15回 最終発表の振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で予習・復習を必ず行うこと。 ・課題に取り組む際には、グループワークを大切にすること。 ・課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、プロジェクトの成果発表(60%)による総合評価						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。 						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U01050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観する						
授業の概要	現在、都市をめぐる環境は、インナーシティの問題に加え、商店街の衰退やオールドニュータウン化が進む一方で、都心のマンションラッシュなど都心回帰も始まっている。神戸をはじめとする都市部では、コレクティブハウジングなど新しい住まい方も生まれ、また、行政と協働で生活マナー向上の取り組みも始まっている。本講義では、都市の成り立ちも含めたハード面や、生活上のソフト面を解説し、まちに関心をもってもらえるような具体的な事例を取り上げながら、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。						
到達目標	(1) 近代～現在の都市生活を知り、自分にとっての「まち」を考察することができる。 (2) 高度情報化社会の中の「まち」を情報化、記述し、都市情報を発信することができる。 (3) 「まちづくり」に参画することができる。						
授業計画	第1回 まちを読み解く 第2回 京都・大阪・神戸の街 第3回 街と都会。街らしさと地方性 第4回 まちのでき方。大阪アメリカ村・南船場・堀江を例に 第5回 インターネット時代と都市空間 第6回 モバイル、コンビニ化される街 第7回 都市消費生活、消費者と匿名性、生活者と実名性 第8回 情報化、記号化、広告化される街 第9回 消費情報のなかの「都市」「都会」 第10回 「ファスト風土化」される街と商店街 第11回 街場のコミュニケーション 第12回 都市生活のなかの自己決定、自己責任 第13回 「自分の街」と居場所 第14回 コミュニティとしての都市、都会、街。ネットワーク 第15回 「わたし」の都市生活について書く						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ授業計画のテーマについて、自分なりの考察を深めておくこと（学習時間の目安：1時間）。街（例えば神戸）についての具体的な情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること（学習時間の目安：1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	毎回、レジュメや資料を配布します。 出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコフス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナル・スティグレル著、新評論 ISBN-10: 4794807430 『愛と経済のロゴス カイエ・ソバージュⅢ』中沢新一著、講談社選書メチエ、ISBN-10: 4062582600						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市文化論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活、都市文化のなかのさまざまな「情報」の様相について学ぶ。						
授業の概要	この授業では、都市のなかの生活文化を扱う。現代のさまざまな情報文化は、都市という場で人間の社会生活と関わり合いながら、都市の生活文化となる。映画館や美術館、書店や喫茶店、マーケットや住宅、学校や交通機関といった都市の構成要素は、情報の発信装置であると同時に、日々の生活の一部でもある。そのような情報と生活の接する場としての都市に生成する「都市文化」の諸相を、家族、地域、消費、余暇、教育など、さまざまな生活の場面のなかに読み解きながら、情報化された現代の都市における生活文化を考える。						
到達目標	(1) 都市情報のリテラシー（情報を見極め、良質な情報を使いこなすこと）を身につける。 (2) 経済合理性と情報を軸にした過酷な消費社会のなか、「自分らしい」有意義な社会生活を送ることができる。 (3) 都会のなかで自分のコミュニティを見つけ、創出することができる、高いコミュニケーション能力の獲得。						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 家族の解体と消費社会 第3回 情報の中にある都会 第4回 都会、都市空間とメディアの変貌 第5回 都市情報と消費欲望 第6回 広告化される都市空間 第7回 ソーシャル・キャピタルについて 第8回 差異化と趣味、ライフスタイル 第9回 文化資本と階層 第10回 インターネットとメディア 第11回 都市生活とローカルズム 第12回 都市における職住隣接。「銭湯経済」「小商い」 第13回 都会のなかの拠点と居場所 第14回 都市生活とインターネット「保育園落ちた日本死ね」の衝撃 第15回 課題提出と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義前の準備：教科書や参考書を読むこと（1時間）。 講義後の復習：講義で触れたテーマについて、教科書、参考書を参照しながら、学んだこと考えたことを記述しておく（課題試論作成のため）。						
授業方法	教科書に基づいた講義を行い、その都度毎回リアクションペーパーを書くこと。 毎回、レジュメや資料を配布します。 試論（1200字程度/第15回までに書いて提出）のための課題を出します。						
評価基準と評価方法	試験は実施しません。課題（1200字程度の試論）40%、各回提出のリアクションペーパー40%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は単位を与えません。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	『街場のメディア論』 内田樹著、光文社新書 ISBN: 9784334035778 『寝ながら学べる構造主義』 内田樹、文春新書 ISBN: 4166602519 『差異と欲望』 石井洋二郎著、藤原書店 ISBN: 4938661829 『ソーシャル・キャピタル入門-孤立から絆へ』 稲葉陽二著、中公新書 ISBN-10: 412102138X 『「消費」をやめる-銭湯経済のすすめ』 平川克美著、ミシマ社、ISBN-10: 49303908533						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	ヒューマンリソースマネジメント論						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	U72570
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	”人”という資源は、他のモノや情報やカネにはない、非常に特殊な特徴を持っている。まず、”人”は、①「他の資源を動かす原動力」になる。②「育てることができる資源」であり、③人は感情や思考力を持つ。本講座では、経営者の立場に立って、人という資源をマネジメントするするときには、マネジメントされる人に配慮することを理解し、人が他の資源と比べてマネジメントが非常に難しいことに対しての理解を深める。						
授業の概要	ヒト・モノ・カネ・情報という企業の4つの経営資源のうち、この講義では”人”のマネジメントのあり方について考えます。受講生が企業に入社した場合、企業の中でどのように評価されて給与が払われるのか、また企業の中でどのように自分の能力やスキルを発揮して、よりよい企業人生を送るかについて自分の視点で学ぶ。						
到達目標	日本企業における、主に社員に関わるマネジメントの基本を学び、どのような現実的諸問題が発生しているかについても理解をする。昨今の「ライフ・ワーク・バランス」、「働き方改革」の内容も理解する。						
授業計画	第1回 導入、人的資源管理の沿革 第2回 人的資源管理とは何か 第3回 日本型人事制度・運用の特徴 第4回 社員に対する雇用管理の基本 第5回 賃金制度・報酬運営 第6回 年功序列と成果主義 第7回 欧米の賃金・評価制度 第8回 福利厚生制度の概略 第9回 労働時間管理の基本 第10回 労使関係管理(労働組合と会社との関係) 第11回 ワーク・ライフ・バランスの考え方 第12回 「働き方改革」について 第13回 教育訓練、企業内研修について 第14回 採用・退職管理について 第15回 人的資源管理のまとめ、社員の企業におけるライフサイクル						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	企業の人的資源管理に関する新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックの発表も予定している。						
授業方法	講義を基本とするが受講生との対話形式も取り入れる。グループワークをすることもある。 授業で見解を求めることがあるが、積極的な発言を期待したい。						
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート(40%)、試験(60%)でにより総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確保できない場合は受講資格を失う・ 20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー(私語など)も評価に加味する						
教科書	授業ごとに資料を配布する。						
参考書	・「経験から学ぶ 人的資源管理論」(有斐閣ブックス) ・「人事部は見てる。」(日経プレミアシリーズ)						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72170
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。						
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。						
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる。 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる。 身の回りのアパレル製品について、消費者の視点から考えを述べるすることができる。						
授業計画	第1回：はじめに 被服材料と消費性能 第2回：糸の種類と構造 1 糸の分類 第3回：糸の種類と構造 2 恒重式番手 第4回：糸の種類と構造 3 恒長式番手とより構造 第5回：布の組織と種類 1 織物 第6回：生地見本帳の作成 第7回：生地見本帳の説明 第8回：まとめと中間試験 第9回：布の組織と種類 2 編物 第10回：その他の被服材料 1 不織布、天然皮革 第11回：その他の被服材料 2 合成皮革、毛皮 第12回：その他の被服材料 3 レース、羽毛 第13回：まとめと期末試験 第14回：試験の復習と最終課題 第15回：学外研修、確認テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと（30分） 授業後学習：復習と課題（90分）						
授業方法	講義、VTR、演習、学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点 40%、試験 60%、試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修の交通費等は自己負担。実施は授業時間外になることがある。 2. 履修の対象者 被服材料学実験を希望する場合は、被服材料学（講義）も履修しなければならない。 3. 前期開講の被服繊維学は、被服材料学の基礎となる内容なので、可能な限り受講することが望ましい。 4. 授業時に課題を出すことがあるので、積極的に取り組むこと						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服心理学						
担当教員	牛田 好美					科目ナンバ-	U72210
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
授業の概要	人が被服を着用する目的には、身体保護や体温調節など、身体内部の生理的平衡状態を保ち、生命維持や健康増進をめざすことがあります。それに加えて、社会的、心理的な目的もあります。すなわち、被服によって自己を確認したり、変身願望を充足させたり、外見的魅力を高めたり、周囲へ同調したり、性的なアピールをしたりします。この授業では、こうした社会的・心理的効果をもつ被服行動について学習し、被服行動と人間のさまざまな関わりについて考える力を養います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の社会的・心理的機能を理解することができる。 ・日常生活をより良くするために、被服の社会的・心理的効果を考え、被服に関する行動を行うことができる。 						
授業計画	第1回 被服への社会心理学的アプローチ 第2回 被服と自己意識 (1) ボディ・イメージとは 第3回 被服と自己意識 (2) 社会で形成されるボディ・イメージ 第4回 被服と対人認知 (1) 印象形成 第5回 被服と対人認知 (2) 自己管理、自己呈示、役割理論 第6回 被服と非言語的コミュニケーション 第7回 被服と対人行動 第8回 被服と集団行動 第9回 被服とジェンダー 第10回 流行の普及と採用 第11回 個人発表 (1) 第12回 個人発表 (2) 第13回 個人発表 (3) 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。						
授業方法	主に、講義形式でおこないますが、テーマに沿った個人発表もおこないます。必要に応じて資料を配布します。						
評価基準と評価方法	授業参加度 (30%)、授業中の発表 (20%)、レポート (20%)、試験 (30%)により総合的に評価します。						
履修上の注意	座席を指定します。						
教科書	21世紀の社会心理学シリーズ8 高木修 (監修) 被服行動の社会心理学 神山進 (編) 北大路書房						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U72180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明することができること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の洗浄理論を説明することができる。 ・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 ・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。 						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第3回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第4回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第5回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第8回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第9回：洗濯機、家庭洗濯 第10回：洗浄力の試験法と評価 第11回：機械作用の試験法と評価 第12回：漂白剤と増白、しみ抜き 第13回：衣服の保管、商業洗濯 第14回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル、期末試験 第15回 試験の復習と最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（60分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、課題）40%、試験60% 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U22110
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験						
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：界面現象 第3回：界面活性剤の性質と作用 第4回：石けんの製造 第5回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第6回：精練・漂白・増白 第7回：しみぬき 第8回：洗濯に伴うトラブル 第9回：西洋茜による染色 第10回：酸性染料、直接染料による染色と染色条件の検討 第11回：反応染料による三原色配合染色 第12回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第13回：建て染め染料による染色 第14回：染色堅ろう度試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：テキストを読み、実験内容を把握しておく。（30分） 授業後：レポートを作成する。（90分）						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点 50%、レポート 50%						
履修上の注意	被服整理学も併せて履修すること。 遅刻、欠席をしないこと。 安全な靴を着用し、必要に応じて白衣着用のこと。						
教科書	テキスト（プリント）配布						
参考書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U72160
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的を関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 ・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。 ・着用目的に合った繊維素材を選択することができる。 						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維～綿① 第3回：天然繊維 植物繊維～綿② 第4回：天然繊維 植物繊維～麻 第5回：天然繊維 動物繊維～羊毛 第6回：天然繊維 動物繊維～絹 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維 第9回：化学繊維 半合成繊維 第10回：化学繊維 合成繊維～ナイロン 第11回：化学繊維 合成繊維～ポリエステル 第12回：化学繊維 合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第13回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維 他 第14回：まとめと期末試験 第15回：試験の復習、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（90分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、ワークシート記入状況）：40%、試験：60% 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	フードコーディネート論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U72500
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物のおいしさについての基礎的な知識を持ち、食べる人がこの食に対して何を求めているのかの要望を察知してコーディネートすることを考える！（フードスペシャリストの資格試験科目）						
授業の概要	<p>食に関する様々な場において複雑な状況を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することがフードコーディネートには求められている。その活動範囲は、家での食卓だけでなくレストランや食品を販売するスーパーやデパ地下、食に関する情報を発信するイベントやテレビ、広告などの企画、また知識や技術を伝達する食育、さらには店舗経営など極めて広い。</p> <p>食に関する場面において満足できる状態を演出するということは、「美味しいものを食べる」だけでなく、「美味しいものを美味しく食べる」あるいは「美味しいものを美味しく食べさせる」ことであり、食物自体の美味しさに加えて食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などが関わる総合的な場面を構築することである。</p> <p>そこで本講義では、世界無形文化遺産に登録された和食をはじめ、イタリアンや中国料理など世界各国の食生活や食文化を学び、昔の経験に基づいて築かれた伝統技術（例えば包丁の扱い方やテーブルマナー）や知識の理解を深め、食生活の楽しさを演出できる工夫を考える。</p> <p>さらに昨今大きな課題である食育、食の安全性について現状を理解するとともに、なぜこのような問題が生じたのかを考えていく。</p>						
到達目標	<p>①食には幅広い役割（体をつくる役割、コミュニケーションを育むための場、教育の場、楽しむ場、その他）があることを理解し、実践出来るようになる。</p> <p>②食教育で使用できる楽しい教材を考えることができる。</p> <p>③楽しい食空間を演出できるようコーディネート力をつける。</p>						
授業計画	<p>第1回 フードコーディネートの基本理念 第2回 食事の文化（日本の食事の歴史） 第3回 食事の文化（外国の食事） 第4回 食卓のコーディネート 第5回 食卓のサービスとマナー（日本料理のサービスとマナー） 第6回 食卓のサービスとマナー（中国料理・西洋料理・その他のサービスとマナー） 第7回 メニュープランニングの要件 第8回 食空間のコーディネート（理論） 第9回 食空間のコーディネート（実践） 第10回 フードサービスマネジメント（マネジメントの基本と起業する意義） 第11回 フードサービスマネジメント（投資計画の作成・収支計画の作成・売上） 第12回 食企画の実践コーディネート（食企画の流れ） 第13回 食企画の実践コーディネート（食企画に必要な基礎スキルと実践現場の現状） 第14回 食育の現状問題と課題 第15回 フードコーディネートの今後の課題とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前：授業計画に従って、教科書の必要な箇所を読んでおくこと。また、食に関する資料を集めておくこと。</p> <p>授業後：復習をし、要点をまとめておくこと。</p>						
授業方法	<p>講義 場合によって実習などを取り入れることがある</p>						
評価基準と評価方法	レポートとプレゼンテーション（各1回ずつ）20%、小テスト20%（1回）、期末テスト60%						
履修上の注意	<p>①20分以上の遅刻は欠席扱いとする ②学外実習を行うこともある。それに伴う交通費や入場料などは実費負担となる。</p>						
教科書	（社）日本フードスペシャリスト協会編「三訂 フードコーディネート論」ISBN:978-4-7679-0440-5						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	保育・看護学						
担当教員	寺村 ゆかの					科目ナンバ-	U72020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの理解と家庭的保育						
授業の概要	<p>高齢化、少子化、核家族化が一般的となった現代、若い夫婦が健全な生活を営むのには多大の努力が必要である。出産や死亡は病院が普通となり、医学の進歩により家庭での看護の意義も変容してきた。育児では家庭が主体であることに変わりはないが、保育所や幼稚園も無視できない。本講義では、乳幼児の発育、家族の発達過程で生じるさまざまな健康の問題に対し、解決方法や家庭での看護のあり方、具体的な看護技術について学ぶ。さらに、より健康的なライフスタイルを獲得するためには何が必要かを考える。</p> <p>胎児期については主に身体の発達、出産後の乳幼児期については身体と心理（例えば、運動、認知、情緒など）の発達を解説する。併せて、成長後の社会性にとって極めて重要な乳幼児期の対人関係のあり方の意味を検討する。また、乳幼児が健康であることは何かについて、病気と看護、環境整備、予防接種等を取り上げて説明するとともに、そうした健康を保障するための事故防止や安全管理の重要性を説明する。さらに、保育をめぐる現状と課題（マルトリートメント、ひとり親家庭、産後うつや育児不安、待機児童、発達障害など）を議論する。また、演習ではグループに分かれ事例を検討し発表をおこなう。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達の基本を理解するとともに、子育てに必要な知識と態度を身につけることができる 2. 現代社会における子育て支援の現状と課題を知り、それらについての自分の意見を表明することができる 						
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション／保育とは何か 第2回 成長と発達 第3回 妊娠期の女性（母親）の心身の変化と胎児の成長・発達 第4回 新生児・乳児期の心身の成長・発達 第5回 幼児期の心身の成長・発達 第6回 乳幼児期の人間関係の発達 第7回 乳幼児の健康①（子どもがかかりやすい病気） 第8回 乳幼児の健康②（環境整備と予防接種） 第9回 乳幼児の健康③（家庭での看護） 第10回 乳幼児期に起こりやすい事故① 環境整備と事故予防 第11回 乳幼児期に起こりやすい事故② 応急処置 第12回 家庭的保育の現状と課題 第13回 子どもと保護者への接し方・関わり方① 第14回 子どもと保護者への接し方・関わり方② 第15回 保育サービスの現状と課題とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：毎回の講義の最後に、次回の講義内容に関係する「キーワード」を提示するので、それについて次回の授業までに自己学習しておく。授業ではその「キーワード」についての質問を適宜おこない、皆さんの意見等を求めるので答えられるように準備しておく。＜学習時間90分＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を復習し、それに関する新聞記事や文献等を読む。＜学習時間90分＞</p>						
授業方法	講義が中心であるが、事例検討を通じた演習（グループワーク）もおこなう。						
評価基準と評価方法	<p>平常点100% ＜内訳＞ 毎回授業中の後半に作成するミニレポート（演習記録含む）70% 最終回に実施する小テスト30% ミニレポートについては、到達目標の1.2.についての到達度を確認する。例えば、授業の内容をどの程度理解したか、具体的に回答しているかという点を評価する。 小テストについては、到達目標2についての到達度を確認する。 ＜課題に対するフィードバック＞ ミニレポートの内容について、翌週の授業で紹介し解説する。</p>						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには単位認定をおこなわない。 携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止する。						
教科書	なし。 毎回レジュメを配布する。						
参考書	「保育の心理学」伊藤篤 編著（2017）ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07956-8						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	マーケティング論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。 ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを知ることができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 消費者行動とマーケティング 第4回 マーケティングの\$Pと\$TP 第5回 ブランドとは何か 第6回 ブランド・ロイヤルティとコミュニティ 第7回 製品戦略 第8回 価格戦略 第9回 チャネル戦略 第10回 マーケティング・コミュニケーション戦略 第11回 マーケティング・リサーチ 第12回 グローバルブランドのマーケティング戦略（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 サービスのブランド戦略 第14回 都市・地域のブランド戦略 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください） ②新聞・雑誌必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ③新聞は必読						
教科書	『よくわかる現代マーケティング』陶山計介・鈴木雄也・後藤ゴズ恵編著、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-07975-9						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	リーダーシップ論						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	U72560
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本講義では、これまでのリーダーシップ論の展開を概観し、初期のリーダーシップ論から現代のリーダーシップ論までどのような理論的展開と進歩があったのかを明確にしたうえで、新しいリーダー育成法としての「リーダーシップ開発論」の観点から、「リーダーは生まれつきではなく育成できる」という考え方にに基づき、リーダーシップ「発生・発現」の中核にある要素、リーダーシップコア（能力、人間性、一貫性からなる）について講義する。						
授業の概要	リーダーシップ論を概観したうえで、企業の中で「ヒト」をどのように育てるか、個人はどのように自分の能力やスキルを高めるかについて考える。自身が企業に入社した場合にどのように成長して、よりよい企業人生を送るかを自分の視点で学んでほしい。						
到達目標	①リーダーシップ論の基本を理解する ②企業における人材開発の基本部分を理解する ③自己の能力やスキルの発揮について身近な課題に結び付けて考える						
授業計画	第1回 導入とリーダーシップ概観 第2回 リーダーシップの資質理論 第3回 リーダーシップの行動理論 第4回 リーダーシップのコンティジェンシー理論 第5回 働く人のモチベーション1（経済人モデル） 第6回 働く人のモチベーション2（人間関係モデル） 第7回 働く人のモチベーション3（自己実現モデル） 第8回 企業の教育・訓練 第9回 OJTと自己啓発 第10回 経営者のリーダーシップ例 第11回 中間管理職のリーダーシップ例 第12回 メンタリングとコーチング 第13回 女性のリーダーシップ例 第14回 男女雇用均等法による女性の働き方の変化 第15回 女性活躍推進など。リーダーシップ総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企業の人的資源管理に関する新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックスの発表も予定している。						
授業方法	講義と各自の発表。グループワークを取り入れることもある。 授業で見解を求めることがあるが、積極的な発言を期待したい。						
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート（40%）、試験（60%）で総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確保できない場合は受講資格を失う・ 20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー（私語など）も評価に加味する						
教科書	授業ごとに資料を配布する。						
参考書	・「経験から学ぶ 経営学入門」（有斐閣ブックス）						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和洋菓子実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U22440
学期	後期隔週B	曜日・時限	月曜2~5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生地を中心に基本的な製菓技術を実習し、和洋菓子製作の基礎をマスターする。						
授業の概要	本実習では、基本的な和菓子（饅頭・団子・大福）を中心に実習して、包餡の技術をしっかりと身につける。洋菓子は、スポンジ生地、バター生地、タルト生地、パイ生地など基本の生地を作成できるようになり、さらにデコレーションの技術も身につける。基本的な作業（混ぜる、泡立てる、こねる、のばす、切る、等）を確実にマスターし、衛生面への認識も深めながら実習を進める。						
到達目標	(1) 衛生面に注意しながら、基本的な作業ができる。 (2) 和菓子では包餡を身につけ、洋菓子では基本の生地を作成できるようになる。 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、デコレーションの技術も身につける。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、実習前の注意事項 第2回 洋菓子 スポンジ生地 「特別招へい講師」 第3回 洋菓子 デコレーション 「特別招へい講師」 第4回 洋菓子 タルト生地 「特別招へい講師」 第5回 洋菓子 バター生地 「特別招へい講師」 第6回 洋菓子 パイ生地 第7回 洋菓子 シュー生地 第8回 和菓子 粒餡 第9回 和菓子 饅頭 第10回 和菓子 漬し餡 第11回 和菓子 団子 第12回 和菓子 白餡 第13回 和菓子 大福 第14回 和洋菓子 オリジナル作成 第15回 和洋菓子 まとめ</p> <p>※菓子の種類については、その回の代表的なものを挙げている。詳細は、オリエンテーション時に伝える。 内容については変更することがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに復習する。（学習時間：120分）</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<p>受講態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題作成】課題について適切な計画をたてて、計画に基づき作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確に行っているかを評価する。</p>						
履修上の注意	<p>「和洋菓子理論」の単位取得者が履修できる。 隔週2回連続の実習となるため日程に注意をすること。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習レポートの提出によって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費 7,000円を徴収する。</p>						
教科書	<p>『和菓子教本』、堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014） 『洋菓子教本』、日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2016） ※これらの教科書を「和洋菓子実習」でも使用する。</p>						

参考書	『決定版 和菓子教本』、日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和洋菓子理論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U72480
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	和洋菓子製造の実践に活かせる知識や理論を科学的に習得する。						
授業の概要	和洋菓子製造の基礎知識（道具の名称・種類・使用法や菓子の分類・歴史）や、理論（混捏、発酵、膨化のしくみ、副材料の意義など）、衛生的な取扱いなどを解説する。和洋菓子の理論を順に学び、製法や素材選びなど製造現場での基本的な知識を体系的に身につけるために、基本材料、製法、分類および製菓道具など、実習とリンクさせながら順を追って学習する。卓上の知識ではなく実践に活かせる知識としての習得を目指す。						
到達目標	(1) 和洋菓子製造の基礎知識や理論、衛生的な取扱いを理解する。 (2) 製法や素材選びなど製造現場での基本的な知識を体系的に習得する。 (3) 和洋菓子の理論コツとカンに類する部分を、科学的知識として身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、和洋菓子の歴史と種類、 第2回 原材料の基礎知識 小麦粉・糖類・卵 第3回 原材料の基礎知識 乳製品・その他 第4回 洋菓子 基本の生地とその応用 第5回 副材料の意義 第6回 膨化のしくみ 第7回 和菓子の基礎知識 年中行事 第8回 和菓子の基礎知識 製菓原料 第9回 和菓子の基礎知識 分類 第10回 和菓子 餡 第11回 和菓子 生地 第12回 製菓道具と器具の役割 第13回 菓子の周辺 お茶・食器 第14回 オリジナル菓子に向けて 衛生的な取扱い 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。この授業の中で、和洋菓子実習で実習する菓子の調理科学的な理論について具体的に説明をする。授業の終わりには各回の課題についてまとめる時間をとり、ミニレポートを作成して提出とする。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題20%：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。(2)に関する到達度の確認。 受講態度30%：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。(1)(2)および(3)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	『和菓子教本』、堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014） 『洋菓子教本』、日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2016） ※これらの教科書を「和洋菓子実習」でも使用する。						
参考書	『決定版 和菓子教本』、日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8						